

(様式第 10)

滋医大ク 2 - 0 - 1
令和 3 年 10 月 11 日

厚生労働大臣 殿

開設者名 国立大学法人滋賀医科大学長
上 本 伸 二

滋賀医科大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、令和 2 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町
氏 名	国立大学法人 滋賀医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

滋賀医科大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町	電話 (077) 548-2111
-----------------------	-------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有 ・ 無		
内科と組み合わせた診療科名等			
①呼吸器内科	②消化器内科	③循環器内科	④腎臓内科
5神経内科	⑥血液内科	7内分泌内科	8代謝内科
9感染症内科	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	11リウマチ科	
診療実績			
「脳神経内科」において、「神経内科」の診療を提供している。			
「糖尿病内分泌内科」において、「内分泌内科」及び「代謝内科」の診療を提供している。			
「血液内科」において、「感染症内科」の診療を提供している。			
「呼吸器内科」、「耳鼻咽喉科・頭頸部外科」及び「小児科」において、「アレルギー疾患内科またはアレルギー科」の診療を提供している。			
「整形外科」において、「リウマチ科」の診療を提供している。			

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科		有	無
外科と組み合わせた診療科名			
1呼吸器外科	2消化器外科	3乳腺外科	4心臓外科
5血管外科	6心臓血管外科	7内分泌外科	8小児外科
診療実績 「外科」において、「乳腺外科」、「内分泌外科」及び「小児外科」の診療を提供している。			

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

1精神科	2小児科	3整形外科	4脳神経外科	5皮膚科	6泌尿器科	7産婦人科
8産科	9婦人科	10眼科	11耳鼻咽喉科	12放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科	15麻酔科	16救急科				

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科		有	無
歯科と組み合わせた診療科名			
1小児歯科	2矯正歯科	3口腔外科	
歯科の診療体制 「歯科口腔外科」において、「歯科」の診療を提供している。			

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	リハビリテーション科	2	病理診断科	3	形成外科	4	腫瘍内科	5	脳神経内科
6	糖尿病内分泌内科	7	歯科口腔外科	8	耳鼻咽喉科・頭頸部外科				
9	10	11	12	13	14				
15	16	17	18	19	20	21			

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
34 床	床	床	床	569 床	603 床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	366 人	241 人	403.4 人	看 護 補 助 者	27 人	診療エックス線技師	0 人
歯 科 医 師	19 人	17 人	19.6 人	理 学 療 法 士	18 人	臨床検査技師	77 人
薬 剤 師	46 人	3 人	47.5 人	作 業 療 法 士	6 人	衛生検査技師	0 人
保 健 師	0 人	0 人	0 人	視 能 訓 練 士	7 人	そ の 他	0 人
助 産 師	32 人	3 人	34.1 人	義 肢 装 具 士	0 人	あん摩マッサージ指圧師	0 人
看 護 師	622 人	75 人	673.2 人	臨 床 工 学 士	16 人	医療社会事業従事者	7 人
准 看 護 師	0 人	0 人	0 人	栄 養 士	0 人	その他の技術員	18 人
歯科衛生士	4 人	0 人	4.0 人	歯 科 技 工 士	0 人	事 務 職 員	202 人
管理栄養士	14 人	1 人	14.0 人	診療放射線技師	33 人	そ の 他 の 職 員	14 人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	51 人	眼 科 専 門 医	10 人
外 科 専 門 医	36 人	耳鼻咽喉科専門医	10 人
精 神 科 専 門 医	6 人	放射線科専門医	16 人
小 児 科 専 門 医	28 人	脳神経外科専門医	9 人
皮 膚 科 専 門 医	5 人	整形外科専門医	15 人
泌尿器科専門医	11 人	麻 酔 科 専 門 医	22 人
産婦人科専門医	18 人	救 急 科 専 門 医	8 人
		合 計	245 人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (田中 俊宏) 任命年月日 令和 2 年 4 月 1 日

平成26年4月1日から令和2年3月31日まで、副病院長（医療安全等担当）として、医療安全管理部長、医療安全管理委員会副委員長の経験を有する。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1 日 当 たり 平 均 入 院 患 者 数	445.4 人	3.9 人	449.4 人
1 日 当 たり 平 均 外 来 患 者 数	768.5 人	43.6 人	812.2 人
1 日 当 たり 平 均 調 剤 数	768.7 剤		
必要医師数	95 人		
必要歯科医師数	4 人		
必要薬剤師数	15 人		
必要（准）看護師数	256 人		

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二条の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施 設 名	床面積	主要構造	設 備	概 要
集中治療室	507.91m ²	耐火構造	病 床 数	12 床
			心 電 計	有・無
			人工呼吸装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	150.88 m ²	病床数 7 床
	[移動式の場合]	台 数	9 台	
医 薬 品 情報管理室	[専用室の場合]	床 積	29.78 m ²	
	[共用室の場合]	共用する室名		
化学検査室	123.55m ²	耐火構造	(主な設備) 血液ガス分析装置、生化学自動分析装置、全自動免疫測定装置、自動血液凝固分析装置、自動血球分析装置、細胞解析システム、保冷库、超低温フリーザー、遠心機	
細菌検査室	95.50m ²	耐火構造	(主な設備) 血液培養装置、抗酸菌培養装置、細菌同定感受性検査装置、細菌同定装置、微生物由来成分分析装置、微生物分類同定分析装置	
病理検査室	74.75m ²	耐火構造	(主な設備) 自動染色装置、自動封入装置、凍結薄切作製装置、免疫染色全自動システム	
病理解剖室	77.88m ²	耐火構造	(主な設備) 写真撮影装置、TPSシステム、照明器具、滅菌装置、長靴側面・底洗浄機、病理検査用流し台テーブル	
研 究 室	4,704.00m ²	耐火構造	(主な設備) 蛍光顕微鏡、インキュベーター、PCR、安全キャビネット、遠心機	
講 義 室	636.00m ²	耐火構造	室数	3 室
			収容定員	624 人
図 書 室	1,262.00m ²	耐火構造	室数	7 室
			蔵 書 数	17.0万 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率		89.3 %	逆紹介率		73.8 %
算出根拠	A：紹介患者の数		10,865 人		
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		10,927 人		
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		2,372 人		
	D：初診の患者の数		14,816 人		

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に 100 を乗じて小数点以下第 1 位まで記入すること。
- 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に 100 を乗じて小数点以下第 1 位まで記入すること。
- 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
松村 由美	京都大学	○	医療に係る安全管理に関する業務に従事している	有・無	1
佐和 貞治	京都府立医科大学		医療に係る安全管理に関する業務に従事している	有・無	1
平野 哲郎	立命館大学		法律学に関する専門知識に基づき教育・研究業務に従事している	有・無	1
西川 甫	滋賀県スポーツ協会		医療を受ける者の立場から意見を述べる	有・無	2
遠山 育夫	滋賀医科大学		大学の理事（研究・企画・国際担当）の立場で意見を述べる	有・無	3
松浦 博	滋賀医科大学		大学の理事（教育・学生支援・コンプライアンス担当）の立場で意見を述べる	有・無	3

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有・無
委員の選定理由の公表の有無	有・無
公表の方法 病院ホームページに掲載している。	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
なし	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
S-1内服投与並びにパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法	0人
糞便微生物叢移植	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	次世代シークエンサーを用いた家族性不整脈症候群の遺伝子解析	取扱患者数	406人
当該医療技術の概要(循環器内科) 既知の候補遺伝子には変異が同定されなかった家族性不整脈症候群症例において、次世代シークエンサーを用いることにより、全エクソン領域の変異を同定し、疾患の原因遺伝子の同定を試みている。			
医療技術名	リアルタイム位相マッピング装置による心房細動の可視化診断	取扱患者数	18人
当該医療技術の概要(循環器内科・医療情報総合センター) 従来、心内電位波形しか記録できず治療法が未確立であった持続性心房細動に対して、本学の芦原らが発明したオンライン・リアルタイム位相マッピング装置(平成27年8月薬機承認)で心房細動の複雑な興奮動態を瞬時に映像化し、患者毎に異なる心房細動の持続メカニズムを診断することで、新たな治療戦略の確立を目指している。			
医療技術名	経カテーテル大動脈弁置換術(TAVI)	取扱患者数	63人
当該医療技術の概要(循環器内科) 自己心拍下にカテーテルを用いて生体弁を大動脈に留置する新しい治療。従来の外科手術で必要であった開胸や人工心臓使用が不要であるため、高齢者などのハイリスク患者への有用な治療法として期待している。			
医療技術名	高周波ホットバルーンによる発作性心房細動アブレーション	取扱患者数	13人
当該医療技術の概要(循環器内科) 発作性心房細動に対する肺静脈隔離術を行うにあたり、従来の高周波焼灼術はカテーテルで点状に焼灼して左心房と肺静脈の電氣的つながりを遮断していたのに対して、高周波電流で過熱されたバルーン形状のカテーテルを肺静脈入口部に当てて円周状に焼灼し電氣的つながりを遮断できる新しい術式である。通常の電極カテーテルによるカテーテルアブレーションに比べて、より簡便かつ短時間での肺静脈隔離を実現できる。			
医療技術名	クライオバルーンによる発作性心房細動アブレーション	取扱患者数	27人
当該医療技術の概要(循環器内科) 発作性心房細動に対する肺静脈隔離術を行うにあたり、従来の高周波焼灼術はカテーテルで点状に焼灼して左心房と肺静脈の電氣的つながりを遮断していたのに対して、冷凍焼灼は亜酸化窒素ガスを使用したバルーン形状のカテーテルを肺静脈入口部に当てて円周状に焼灼し電氣的つながりを遮断できる新しい術式である。通常の電極カテーテルによるカテーテルアブレーションに比べて、より簡便かつ短時間での肺静脈隔離を実現できる。			
医療技術名	完全皮下植込み型除細動器(S-ICD)	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要(循環器内科) 新型の植込み型除細動器(ICD)(平成28年薬機承認、保険適応)で、従来型のような心臓内リードを必要としないため、リードの感染や断線、血管閉塞や癒着など、リードそのものによるトラブルを無くすことができる。そのため、感染リスクの高い患者、若年の患者などにも適応が広がった。京滋奈良地区で初となるS-ICD手術は当院当科で実施した。			
医療技術名	リードレスペースメーカ植え込み術	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要(循環器内科) 新型の超小型ペースメーカ(平成28年薬機承認、保険適用)で、経静脈的にペースメーカ本体のみを心室内に植込むことのできるリードレスのMRI対応型ペースメーカである。リード断線やリード感染など、ペースメーカリードに関連する合併症の心配がなく、植込み後の患者負担も極めて低いことから、利用可能性が高まると期待される。			
医療技術名	経静脈的ペースメーカーリード抜去術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要(循環器内科) デバイス感染、デバイス治療合併症(リコール、断線、閾値上昇など)、アップグレード、高度の機能獲得のための不要リードの除去などの目的に従来は開胸で行っていた技術であるが、メカニカルシースを用いることで経静脈的に抜去する極めて難度の高い技術である。滋賀県下では当院が最初であり、症例数もいちばん多い。			
医療技術名	潰瘍性大腸炎に対するFilgotinibの国際第2b/3相ランダム化比較試験	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(消化器内科) 難治性の潰瘍性大腸炎に対して、JAK1選択的阻害薬であるFilgotinibの有効性と安全性について国際第2b/3相ランダム化二重盲検比較試験を行う。			

医療技術名	NAFLD患者を対象としたペマフィブラートの国内第II相試験	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要(K-877) NAFLDに対して、選択的PPAR α モジュレーターであるペマフィブラートの有効性と安全性について国内第II相ランダム化比較試験を行う。			
医療技術名	潰瘍性大腸炎に対するOntamalimabの国際第3相ランダム化比較試験	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(消化器内科) 難治性の潰瘍性大腸炎に対して、抗MAdCAM-1抗体であるOntamalimabの有効性と安全性について国際第3相ランダム化二重盲検比較試験を行う。			
医療技術名	潰瘍性大腸炎に対するVedolizumab皮下注製剤の国際第3b相非盲検長期継続投与試験	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要(消化器内科) 難治性の潰瘍性大腸炎に対する抗 $\alpha 4 \beta 7$ インテグリン抗体であるVedolizumabの安全性と有効性について国際第3b相非盲検長期継続投与試験を行う。			
医療技術名	クローン病に対するFilgotinibの国際第3相ランダム化比較試験	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(消化器内科) 難治性のクローン病に対するJAK1選択的阻害薬であるFilgotinibの有効性と安全性について国際第2b/3相ランダム化二重盲検比較試験を行う。			
医療技術名	クローン病に対するRisankizumabの国際第3相ランダム化比較試験	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要(消化器内科) 難治性のクローン病に対して、IL-23p19抗体であるRisankizumabの有効性と安全性について国際第3相ランダム化二重盲検比較試験を行う。			
医療技術名	潰瘍性大腸炎に対するRisankizumabの国際第2b/3相ランダム化比較試験	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要(消化器内科) 難治性の潰瘍性大腸炎に対して、IL-23p19抗体であるRisankizumabの有効性と安全性について国際第2b/3相ランダム化二重盲検比較試験を行う。			
医療技術名	潰瘍性大腸炎に対するOzanimodの国内第2/3相ランダム化比較試験	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要(消化器内科) 中等症から重症の潰瘍性大腸炎に対して、Sphingosine-1-phosphate receptor 1 (S1P receptor 1 or S1P1) アゴニスト免疫調整薬であるOzanimodの有効性と安全性について国内第2/3相ランダム化二重盲検比較試験を行う。			
医療技術名	再生不良性貧血におけるウサギATG+シクロスポリン+エルトロンボパグ療法の有用性に関する検討	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(血液内科) 輸血を必要とする再生不良性貧血 (stage 2b以上) に対して、ウサギATG、シクロスポリン、エルトロンボパグ併用の免疫抑制療法を施行することにより、血液学的奏功(完全寛解または部分寛解)への到達を前向きに検討し、さらに体細胞遺伝子変異の出現の種類と頻度、経時的な変異クローンの拡大の有無を検討する。			
医療技術名	新規コロナウイルス感染拡大下における健常人ボランティアドナー数維持を旨とした口腔内スワブ検体と血液検体のHLA検査精度の検証	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要(血液内科) 健常人ボランティアドナーを対象として、口腔内スワブ検査のHLA検出精度と実用性を従来通り行われる血液検体を用いた結果と比較検証し、さらに、アンケート調査にて検査手技の違いによるドナー満足度について検証する。			

医療技術名	成人急性リンパ性白血病に対する治療プロトコル ALL/MRD2019	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要(血液内科) 急性リンパ性白血病に対して、寛解後の測定可能残存・微小残存病変の有無を指標にリスク別の寛解後療法を行うことにより、リスクに応じた移植適応の確率を図る。さらに、微小残存病変陽性のCD19陽性群またはフィラデルフィア陽性群におけるblinatumomabまたはponatinibを含む地固め療法により、微小残存病変陰性化を図ることによる治療成績の向上を試みる。			
医療技術名	成人急性リンパ性白血病治療におけるプレジジョンメディスン研究	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要(血液内科) 成人急性リンパ性白血病の病態および薬剤感受性を規定する細胞・個体レベルの因子同定および造血幹細胞移植後の高感度キメラズム測定法の開発を行うことにより、成人急性リンパ性白血病治療における、将来のプレジジョンメディスン(精密医療)の基盤となる知見を得ることを試みる。			
医療技術名	再発急性前骨髄球性白血病(APL)に対するTamibarotene(Am80)と亜ヒ酸(ATO)の併用、寛解後療法としてgemtuzumab ozogamicin (GO)を用いた治療レジメンの有効性および安全性検証試験	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要(血液内科) 16 歳以上 65 歳未満の未治療急性前骨髄球性白血病(APL)の寛解例に対して、地固め療法として亜ヒ酸、gemtuzumab ozogamicinを用いた治療を行い、地固め療法が化学療法で施行された過去の JALSG APL プロトコルの historical data との比較を行う。			
医療技術名	神経変性疾患の遺伝子診断	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要(脳神経内科) 脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、パーキンソン病などの神経変性疾患の一部は遺伝性であり、診断確定には遺伝子診断が必要である。今後核酸治療の普及を踏まえ、当科では頻度の高い神経変性疾患の遺伝子診断を行っている。診断確定後の遺伝子カウンセリング体制も整えている。			
医療技術名	筋萎縮性側索硬化症に対するメチルコバラミン(E0302)の第 III 相臨床試験(医師主導治験)	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要(脳神経内科) ALSに対する高容量メチルコバラミンは発症早期からの投与によって進行を著明に抑制する可能性が示されたが、さらに症例数を増加させて効果の有無を検証する。			
医療技術名	進行期パーキンソン病に対するデュオドーパ経十二指腸持続投与	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要(脳神経内科) 進行機パーキンソン病患者に於いて、OFF期の出現やジスキネジアが出現するが、内服治療は困難で煩雑である。デュオドーパを十二指腸への持続的経管投与を一定容量で行うことによって、著明な症状の安定化が得られる。			
医療技術名	脊髄小脳変性症に対する集中リハビリテーションプログラム	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要(脳神経内科) 脊髄小脳変性症は進行性で有効な内服治療の神経難病である。当科では4週間の独自の理学療法、作業療法、言語療法を集中的に行うプロトコルを有しており、小脳失調の機能や認知機能が改善が期待される。			
医療技術名	筋萎縮性側索硬化症の上肢に対するSEMグローブ治療	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要(脳神経内科) 筋萎縮性側索硬化症は進行性の筋萎縮と筋力低下を呈する神経難病である。脱力をきたした筋肉に過度な負荷を与えることはかえって進行を促進することが知られており、最適なリハビリテーションについては議論の分かれるところである。我々は抗重力以下の筋力である趣旨に、SEMという電気式アシストグローブを用いたリハビリテーションを行っている。即時効果の改善が期待される。			
医療技術名	アルツハイマー病に対する抗アミロイド抗体の国際第3相ランダム化試験	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要(脳神経内科) アルツハイマー病に於いて疾患の原因の一つと考えられているアミロイドβの異常構造を特異的に認識する抗体(BAN2401)の有効性について、国際第3相ランダム化二重盲検比較試験を行う。			

医療技術名	筋萎縮性側索硬化症に対するラブリズマブの国際第3相ランダム化試験	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要(脳神経内科) 筋萎縮性側索硬化症の進行への関与が疑われている補体を除去する抗体の有効性と安全性について国際第3相ランダム化二重盲検比較試験を行う。			
医療技術名	頻回再発型小児ネフローゼ症候群を対象としたタクロリムス治療とシクロスボリン治療の多施設共同非盲検ランダム化比較試験	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要(小児科) 頻回再発型小児ネフローゼ症候群を対象としたオープンランダム化並行群間比較試験によって、タクロリムス治療がシクロスボリン治療に対して無再発期間において非劣性であることを検証し、タクロリムス治療とシクロスボリン治療の有害事象を比較する。			
医療技術名	小児期発症のネフローゼ症候群に対する IDEC-C2B8 の 多施設共同二重盲検プラセボ対照ランダム化並行群間比較試験	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要(小児科) 小児期発症のネフローゼ症候群の患者(頻回再発型あるいはステロイド依存性と診断された場合)を対象として、治験薬 IDEC-C2B8 を 1 週間間隔で 2 回投与した際の有効性を検証し、安全性を評価する。			
医療技術名	腹腔鏡下肝切除に対する、術前血管造影下インドシアニングリーン投与による手術ナビゲーションの検討	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(消化器外科) 腹腔鏡下肝切除の術前、血管造影下で切除予定区域の動脈にインドシアニンググリーンを投与し、塞栓することによって、手術ナビゲーションを行う。			
医療技術名	消化器がんに対するがん遺伝子パネル検査	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要(消化器外科) がんゲノム医療連携病院として、消化器がん患者に対するがん遺伝子パネル検査の提供を行う。			
医療技術名	脂肪移植	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(形成外科) 外傷後の陥凹、顔面萎縮症などの先天異常疾患による変形、乳癌などの腫瘍切除後の変形に対する治療として、現在保険適応下に血管柄付き自家組織移植や人工物埋植が行われているが、自家組織の大きな犠牲、人工物埋植による合併症がある。それらに替わる当たらない方法として脂肪移植を開始した。本方法は自家組織の侵襲が少なく、人工物の埋植が必要なく、低侵襲簡便に行うことができる方法である。			
医療技術名	真菌性眼内炎に対するジフルカン硝子体注射	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要(眼科) 真菌性眼内炎はそのほとんどが全身の真菌感染症に続発し、不可逆的な視機能障害をきたす重篤な疾患である。抗真菌薬の全身投与が行われるが、病勢に対しては即効性や効果に乏しいため、直接硝子体内へ投与を行い治療効果を期待するものである。			
医療技術名	サイトメガロウイルス網膜症に対するデノシン硝子体注射	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(眼科) サイトメガロウイルス感染症に伴う合併症に網膜症があるが、全身の免疫機能が低下していることが多く、網膜症の進行は急激で、視機能に障害を残す疾患である。全身投与では病勢を止めることができないことがあり、デノシンを直接硝子体内に投与することで病態の改善を図るものである。			
医療技術名	細菌性眼内炎に対するバンコマイシン・セフトラジジム硝子体注射	取扱患者数	14人
当該医療技術の概要(眼科) 細菌性眼内炎は、眼内手術後や全身の細菌感染巣からの2次感染、角膜潰瘍や外傷などによる眼内への細菌の侵入を起点とし、数日で失明に至る重篤な疾患である。バンコマイシンとセフトラジジムの硝子体注射が最優先の治療になり、数日あけて複数回投与を行うことが多い。			

医療技術名	中心性漿液性脈絡網膜症に対する光線力学療法	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要(眼科) 中心性漿液性脈絡網膜症は中高年に発症し、漿液性網膜剥離をきたす疾患である。黄斑下に病態が及ぶことが多く、保存的に経過観察を行うことが多い。近年、加齢黄斑変性に対する光線力学療法を応用して治療を行う方法が提示され、治療効果が期待できるようになっている。			
医療技術名	tPAを用いた血腫移動術及び血腫除去術	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要(眼科) 網膜下血腫の自然予後は極めて不良であり、早急な治療が必要である。tPAは血腫を溶解させる作用を有しているが、tPAと硝子体内ガス注入の組み合わせ、あるいはtPAを用いた黄斑下手術を行うことにより、良好な治療成績を得ている。			
医療技術名	血管新生緑内障に対するBevacizumab治療	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要(眼科) 血管新生緑内障は重篤な網膜疾患に続発して生じる非常に難治性の緑内障である。その治療には光凝固術により網膜疾患の活動性を低下させることが行われているが、重症の場合、光凝固で網膜症の病勢を止めることができず、眼圧のコントロールができず失明に至ることも少なくない。非常に難治の血管新生緑内障に対して、眼圧をコントロールし、失明回避のため抗VEGF薬(bevacizumab)を硝子体内に投与し、治療効果を期待する。			
医療技術名	重症の糖尿病網膜症の手術前処置としてのbevacizumab治療	取扱患者数	13人
当該医療技術の概要(眼科) 重症の糖尿病網膜症に対する硝子体手術は眼科手術において最も何度が高い手術の一つである。術中の出血を抑制するために、術前にbevacizumabを硝子体内注射する。本処置により、術中合併症が減少し成績が向上する。			
医療技術名	黄斑円孔網膜剥離に対する内境界膜移動と血液の併用術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要(眼科) 難治性の黄斑円孔網膜剥離に対して、内境界膜フラップを円孔内に挿入し、その受けに自己血液を塗布し、網膜の復位を得る。			
医療技術名	吸入麻酔薬による術後鎮静	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要(麻酔科) 吸入麻酔薬とその気化器を用いたICUにおける鎮静の臨床使用を倫理委員会の承認を得て、本邦ではじめて行った。鎮静の質が高く、臓器保護作用の期待できる鎮静法として期待されている。気化器はPMDA承認を得ることができ、今後は吸入麻酔薬による鎮静の適応を取得する準備を進めている。			
医療技術名	慢性疼痛に対する集学的治療	取扱患者数	96人
当該医療技術の概要(ペインクリニック科) 難治性の慢性疼痛に対して、集学的な評価、カンファレンスを行い、適切なチーム医療を行っている。			
医療技術名	血管内治療におけるヒストアクリル、リピオドールの使用	取扱患者数	23件
当該医療技術の概要(放射線科) 外傷や医原性による腹腔内出血や胸腔内出血などの血管内治療において、凝固能異常がある症例や出血血管が微細でカテーテルが到達困難な症例、出血量が多く、瞬時に目的とする血管を閉塞する必要がある症例などで行われる。ヒストアクリルとリピオドールを適度な濃度で混ぜ合わせ投与することで血管内投与後の凝固時間を調節できる。ただ、使用には、ある程度の経験が必要であり、血流速度や血管径、血管走行を熟知して混合比を決定・投与しないと意図しない遠位の塞栓や近位の塞栓、過剰な領域の塞栓、カテーテルの血管への固着が起こり得るため、比較的高い技術が必要となる。			
医療技術名	TIPS(Transjugular Intrahepatic Portosystemic Shunt)	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(放射線科) 門脈圧亢進に対する難治性腹水患者や静脈瘤患者に対して経皮経静脈的に門脈-下大静脈シャントを作成することにより門脈圧を下げ腹水の減少や静脈瘤の縮小を図る。肝静脈から門脈への経路を作成するための肝内の穿刺は透視を見ながら角度、穿刺の深さを決定する必要がある、また、短絡路に留置するステントのサイズの決定にもある程度の経験を要する。経験の浅いものが行うとシャント血管の閉塞や肝性脳症の発生、動脈-胆管短絡などを引き起こす。			

医療技術名	フラットパネルを用いた胸部動的撮影	取扱患者数	17人
当該医療技術の概要(救急・集中治療部) 胸部を息止めのうえ8秒程度専用のフラットパネルで撮影し、画素値の解析を行うことで、肺野の血流を評価することが可能であり、急性肺塞栓、慢性肺塞栓、原発性肺高血圧などの肺血流に異常をきたす疾患の診断、評価が可能になる。当院よりは動物実験で肺塞栓モデルの猿の診断が可能であることを示し、急性肺塞栓の診断と治療経過の確認ができた症例を報告した。			
医療技術名	AnaConDa systemを用いた集中治療室でのセボフルラン吸入麻酔	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要(救急・集中治療部、麻酔科) セボフルラン吸入麻酔は手術中に通常行われる医療行為であるが、集中治療において保険適応がない。AnaConDa systemを用いると集中治療室で通常使う人工呼吸器でセボフルラン吸入麻酔を行うことができる。集中治療室においてセボフルラン吸入麻酔を行うと、通常使用する静注麻酔薬よりも速やかに麻酔を導入し、速やかに覚醒させることができる。よって集中治療室での鎮静方法のオプションが増えることになる。本医療技術は麻酔科と共同で行っている。			
医療技術名	急性呼吸窮迫症候群、急性右心不全に対する一酸化窒素吸入療法	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要(救急・集中治療部) 一酸化窒素吸入療法は新生児の肺高血圧や、心臓手術後の肺高血圧に対して保険適応があるが、急性呼吸窮迫症候群や、心臓手術後以外の急性右心不全に対しては保険適応がない。急性呼吸窮迫症候群、心臓手術後以外の急性右心不全に対して一酸化窒素吸入療法を行うことにより酸素化が改善し、高濃度酸素による肺障害を防ぐことができ、肺動脈圧を低下させることで循環動態を改善することができる。			
医療技術名	薬物の治療効果・副作用を規定する遺伝子多型の解析と投与量設計	取扱患者数	369人
当該医療技術の概要(薬剤部) 薬物の代謝(分解)に関わる酵素の遺伝子に変異することにより、薬物の効果や副作用の発現に個人差が生じることが知られている。薬剤部では、当該薬物服用患者について、遺伝子多型の測定及び、その結果に基づく投与量設計を行っている(対象:45薬物、9遺伝子多型)。本検査は院内でのコンセンサスを得ており、電子カルテ上よりオーダー可能となっている。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	4	56	ベーチェット病	33
2	筋萎縮性側索硬化症	49	57	特発性拡張型心筋症	48
3	脊髄性筋萎縮症	1	58	肥大型心筋症	7
4	原発性側索硬化症	1	59	拘束型心筋症	1
5	進行性核上性麻痺	17	60	再生不良性貧血	20
6	パーキンソン病	164	61	自己免疫性溶血性貧血	1
7	大脳皮質基底核変性症	8	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	1
8	ハンチントン病	2	63	特発性血小板減少性紫斑病	22
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	1
10	シャルコー・マリー・トゥース病	1	65	原発性免疫不全症候群	1
11	重症筋無力症	42	66	IgA 腎症	46
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	28
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	27	68	黄色靱帯骨化症	10
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	19	69	後縦靱帯骨化症	28
15	封入体筋炎	4	70	広範脊柱管狭窄症	7
16	クロウ・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	35
17	多系統萎縮症	31	72	下垂体性ADH分泌異常症	16
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	43	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライソゾーム病	5	74	下垂体性PRL分泌亢進症	4
20	副腎白質ジストロフィー	1	75	クッシング病	4
21	ミトコンドリア病	8	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	1
22	もやもや病	33	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	7
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	54
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1
25	進行性多巣性白質脳症	2	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	1	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	5
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	20	83	アジソン病	0
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	27
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	31
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	9
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	4
34	神経線維腫症	11	89	リンパ脈管筋腫症	2
35	天疱瘡	18	90	網膜色素変性症	16
36	表皮水疱症	0	91	バッド・キアリ症候群	0
37	膿疱性乾癬(汎発型)	4	92	特発性門脈圧亢進症	0
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	2	93	原発性胆汁性肝硬変	26
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	3
40	高安動脈炎	7	95	自己免疫性肝炎	14
41	巨細胞性動脈炎	2	96	クローン病	219
42	結節性多発動脈炎	5	97	潰瘍性大腸炎	421
43	顕微鏡的多発血管炎	5	98	好酸球性消化管疾患	5
44	多発血管炎性肉芽腫症	2	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	18	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	4	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	バージャー病	4	102	ルビンシュタイン・ティビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	1	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	100	104	コストロ症候群	0
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	49	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	28	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	11	107	全身型若年性特発性関節炎	1
53	シェーグレン症候群	15	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	7	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	0	110	ブラウ症候群	0

4 指定難病についての診療

111	先天性ミオパチー	4	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	20
113	筋ジストロフィー	7	163	特発性後天性全身性無汗症	2
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	2	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	0	167	マルファン症候群	3
118	脊髄髄膜瘤	1	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	1
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	1	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	1	177	有馬症候群	0
128	ピックスタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠伸てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	1	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	1	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	1	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	3

4 指定難病についての診療

211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	0	260	システロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイトロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	0	263	脳髄黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	1	264	無 β リポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	0	266	家族性地中海熱	1
219	ギャロウェイ・モフト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	3	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	2	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	23	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	4
224	紫斑病性腎炎	2	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	4	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	1	276	軟骨無形成症	1
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	1	277	リンパ管腫症/ゴーム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α 1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	0
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	0	283	後天性赤芽球癆	2
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	2	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	2	288	自己免疫性出血病XIII	1
241	高チロシン血症1型	0	289	クローンカイト・カナダ症候群	0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)	0
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスporter1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	0
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膀胱炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	5
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシュヤー症候群	1
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	1
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	20
307	カナバン病	0	319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクロヌステんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	β -ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	0
318	シトリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	0
			331	特発性多中心性キャッスルマン病	6
			332	膠様滴状角膜ジストロフィー	0
			333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・後発医薬品使用体制加算1
・歯科外来診療環境体制加算2	・病棟薬剤業務実施加算1
・歯科診療特別対応連携加算	・病棟薬剤業務実施加算2
・特定機能病院入院基本料(一般病棟、7対1入院基本料)	・データ提出加算
・特定機能病院入院基本料(精神病棟、7対1入院基本料)	・入退院支援加算
・救急医療管理加算	・認知症ケア加算
・超急性期脳卒中加算	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・診療録管理体制加算1	・精神疾患診療体制加算
・医師事務作業補助体制加算1(40対1)	・精神科急性期医師配置加算
・急性期看護補助体制加算(25対1:看護補助者5割未満)	・排尿自立支援加算
・看護職員夜間12対1配置加算1	・地域医療体制確保加算
・療養環境加算	・特定集中治療室管理料1
・重症者等療養環境特別加算	・脳卒中ケアユニット入院医療管理料
・無菌治療室管理加算1	・総合周産期特定集中治療室管理料
・無菌治療室管理加算2	・新生児治療回復室入院医療管理料
・緩和ケア診療加算	・小児入院医療管理料2
・精神科身体合併症管理加算	
・精神科リエゾンチーム加算	
・栄養サポートチーム加算	
・医療安全対策加算1	
・感染防止対策加算	
・患者サポート体制充実加算	
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
・ハイリスク妊娠管理加算	
・ハイリスク分娩管理加算	
・呼吸ケアチーム加算	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・ウイルス疾患指導料	・仙骨神経刺激装置植込術・交換術(便失禁に対して実施する場合)
・喘息治療管理料	・仙骨神経刺激装置植込術・交換術(過活動膀胱に対して実施する場合)
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・糖尿病合併症管理料	・緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・がん性疼痛緩和指導管理料	・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
・がん患者指導管理料イ	・網膜再建術
・がん患者指導管理料ロ	・人工中耳植込術
・がん患者指導管理料ハ	・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・がん患者指導管理料ニ	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
・外来緩和ケア管理料	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む)
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
・糖尿病透析予防指導管理料	・喉頭形成手術(甲状軟骨固定用器具を用いたもの)
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
・婦人科特定疾患治療管理料	・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
・夜間休日救急搬送医学管理料の注3に掲げる救急搬送看護体制加算	・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・外来放射線照射診療料	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・ニコチン依存症管理料	・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)

・療養・就労両立支援指導料の注3に掲げる相談支援加算	・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・がん治療連携計画策定料	・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・肝炎インターフェロン治療計画料	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡支援機器を用いる場合)
・外来排尿自立指導料	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)等
・ハイリスク妊産婦連携指導料2	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・薬剤管理指導料	・胸腔鏡下弁形成術
・医療機器安全管理料1	・経カテーテル大動脈弁置換術
・医療機器安全管理料2	・胸腔鏡下弁置換術
・精神科退院時共同指導料1及び2	・経皮的中心筋焼灼術
・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・在宅経肛門的自己洗腸指導管理料	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定	・両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)
・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)	・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
・遺伝学的検査	・植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)
・骨髓微小残存病変量測定	・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極抜去術
・BRCA1／2遺伝子検査	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)
・がんゲノムプロファイリング検査	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
・先天性代謝異常症検査	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
・検体検査管理加算(Ⅳ)	・経皮的下肢動脈形成術

・国際標準検査管理加算	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
・遺伝カウンセリング加算	・腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
・胎児心エコー法	・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ヘッドアップティルト試験	・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
・長期継続頭蓋内脳波検査	・胆管悪性腫瘍手術(臍頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・脳波検査判断料1	・腹腔鏡下肝切除術
・光トポグラフィー	・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
・終夜睡眠ポリグラフィー(安全精度管理下で行うもの)	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・神経学的検査	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・補聴器適合検査	・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ロービジョン検査判断料	・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・コンタクトレンズ検査料1	・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
・内服・点滴誘発試験	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・CT透視下気管支鏡検査加算	・膀胱水压拡張術
・画像診断管理加算2	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・遠隔画像診断	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・人工尿道括約筋植込・置換術
・CT撮影及びMRI撮影	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術

・冠動脈CT撮影加算	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・血流予備量比コンピューター断層撮影	・腹腔鏡下仙骨膣固定術
・心臓MRI撮影加算	・腹腔鏡下仙骨膣固定術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・乳房MRI撮影加算	・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・外来化学療法加算1	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・連携充実加算	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)
・無菌製剤処理料	・胎児胸腔・羊水腔シャント術
・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	・無心体双胎焼灼術
・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	・胎児輸血術
・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の休日加算1
・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の時間外加算1
・摂食機能療法の注3に掲げる摂食嚥下支援加算	・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の深夜加算1
・がん患者リハビリテーション料	・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
・リンパ浮腫複合的治療料	・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る)
・歯科口腔リハビリテーション料2	・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術)
・児童思春期精神科専門管理加算	・輸血管理料Ⅱ
・救急患者精神科継続支援料	・コーディネート体制充実加算
・認知療法・認知行動療法1	・自己クリオプレシピテート作製術(用手法)
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の休日加算1	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算

・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の時間外加算1	・歯周組織再生誘導手術
・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の深夜加算1	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・口腔粘膜処置	・麻酔管理料(Ⅰ)
・口腔粘膜血管腫凝固術	・麻酔管理料(Ⅱ)
・レーザー機器加算	・放射線治療専任加算
・多血小板血漿処置	・外来放射線治療加算
・エタノールの局所注入(甲状腺)	・高エネルギー放射線治療
・エタノールの局所注入(副甲状腺)	・1回線量増加加算
・人工腎臓	・強度変調放射線治療(IMRT)
・導入期加算1	・画像誘導放射線治療(IGRT)
・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	・体外照射呼吸性移動対策加算
・下肢末梢動脈疾患指導管理加算	・定位放射線治療
・CAD/CAM冠	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・センチネルリンパ節加算	・保険医療機関間の連携による病理診断
・四肢・軀幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・病理診断管理加算2
・後縦靱帯骨化症手術(前方進入によるもの)	・デジタル病理画像による病理診断
・椎間板内酵素注入療法	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・脳腫瘍覚醒下マッピング加算	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術	・歯科矯正診断料

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・骨髄微小残存病変(MRD)量測定	・
・前眼部三次元画像解析	・
・マルチプレックス遺伝子パネル検査(進行再発固形がん)	・
・多血小板血漿を用いた難治性皮膚潰瘍の治療	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	98回
剖 検 の 状 況	剖検症例数 15例 / 剖検率 10.1%

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
泌尿器癌に対する抗癌治療における疲労・倦怠感バイオマーカーの探索	沖中 勇輝	泌尿器科	2,650,206	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)
川崎病モデルマウスを用いた心筋炎に伴う不整脈発生の機序の解明	星野 真介	小児科	2,672,176	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)
傷害表皮に遊走する骨髄細胞の機能解析および皮膚難治性潰瘍に対する新規治療法の開発	岡野 純子	形成外科学講座	2,262,648	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)
ダウン症候群合併骨髄性白血病の治療反応の多様性解明の研究	多賀 崇	小児科学講座	2,128,131	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)
起泡性物質の肺手術時における空気漏れ検出への適応に関する基礎的研究	大塩 恭彦	呼吸器外科	2,403,187	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)
GGCT阻害分子を用いた尿路上皮癌治療の開発	影山 進	泌尿器科	2,082,802	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)
分子ライブイメージングを用いた脳動脈瘤増大破裂機序の多面的解析と新規治療法の開発	野崎 和彦	脳神経外科学講座	2,169,236	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)
クローン病のエネルギー代謝と体組成に影響を与える血清バイオマーカーの探索	馬場 重樹	光学医療診療部	2,072,598	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)
Dual energy supplyによる血管性認知症に対する新規治療法の開発	北村 彰浩	内科学講座(脳神経内科)	1,854,113	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)
腹膜播種における癌細胞由来エクソソームの役割の解析	生田 大二	外科学講座(消化器外科)	1,998,720	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)

計10件

腸管線維化におけるIL-38の機能解析	大野 将司	消化器内科	1,951,686	補委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)
グリオーマ幹細胞における Quiescence獲得機構の解明に関する研究	深見 忠輝	脳神経外科	1,757,249	補委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)
難治性がん性腹水・胸水治療のための新規免疫細胞療法の開発	小島 正継	外科学講座(消化器外科)	1,774,301	補委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)
新規エンドトキシン測定法を用いたエンドトキシン吸着療法適応の探索	北村 直美	総合外科学講座	2,037,161	補委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)
急性白血病におけるスーパーエンハンサーを介した転写因子ネットワーク異常の解明	河原 真大	血液内科	1,820,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)
吸入麻酔薬のTRPCチャネル抑制効果を基軸にした心筋保護機構の解明	北川 裕利	麻酔学講座	1,762,363	補委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)
尿蛋白クレアチニン比を用いた、新たな学校検尿システムの構築	坂井 智行	小児科	1,347,948	補委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)
新生児高ビリルビン血症の脳神経の発達にお及ぼす効果についての研究	丸尾 良浩	小児科学講座	1,621,106	補委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)
血管周囲脂肪組織の新たな知見:血管外側からの動脈硬化促進機序の分子生化学的解明	鈴木 友彰	外科学講座(心臓血管外科)	1,600,380	補委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)
ウサギVX2腫瘍モデルを用いたKORTUC動注併用放射線治療による抗腫瘍効果	友澤 裕樹	放射線医学講座	1,690,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)
帝王切開癒痕症候群の病態解明と予防法立案の総合的研究	村上 節	産科学婦人科学講座(母子)	1,690,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)

ファーマコゲノミクス検査の臨床的実用化に向けた臨床データベースの活用	寺田 智祐	薬剤部	1,503,612	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
オートファジーを介した脂質負荷による炎症性腸疾患悪化メカニズム解析と新規治療開発	西田 淳史	内科学講座(消化器・血液内科)	1,427,022	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
HER2陽性乳癌抗体治療による細胞性免疫誘導と新規免疫治療の開発	北村 美奈	乳腺・一般外科	1,533,473	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
膀胱拡大術に対する羊膜上皮細胞と脂肪由来幹細胞を用いた機能的膀胱の再生	堀井 常人	泌尿器科学講座	1,563,309	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
蛋白翻訳後修飾O-GlcNAc修飾の腎生理ならびに糖尿病性腎臓病における役割	金崎 雅美	血液浄化部	1,560,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
新規バイオアッセイ法を用いたグルカゴン及びグルカゴン関連ペプチドの生理活性の評価	柳町 剛司	糖尿病内分泌内科	1,560,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
未熟児網膜症モデルへの抗VEGF薬投与による、血清VEGFおよび反対眼への影響	一山 悠介	眼科	1,477,575	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
非活性型TGF β (LAP) 陽性免疫細胞に着目した尿路上皮癌免疫治療の新規開発	村井 亮介	泌尿器科	1,471,218	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
腸内細菌叢による短鎖脂肪酸生成がCOPD患者の運動耐容能に与える影響の検討	黄瀬 大輔	内科学講座(呼吸器内科)	1,513,460	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
脳可塑性変化からみる漢方薬の鎮痛メカニズムの解明	中西 美保	麻酔科	1,114,282	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
鼻腔検体を利用したアルツハイマー病早期診断法(リキッドバイオプシー)の開発	中村 圭吾	耳鼻咽喉科	1,432,338	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)

中性脂質に対する高感度ハイスルーブット定量法の開発と動脈硬化予防への臨床応用	森田 真也	薬剤部	1,400,735	補委	日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
免疫トレランスを回避する複合的がん免疫細胞治療法の開発	目片 英治	総合外科学講座	1,430,000	補委	日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
腸上皮組織におけるO-GlcNAc修飾の役割の解明	卯木 智	糖尿病内分泌内科	1,430,000	補委	日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
慢性子宮内膜炎に対するラクトフェリンに着目した治療法開発	木村 文則	産科学婦人科学講座(女性)	1,430,000	補委	日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
ALSにおけるミトコンドリア障害とRNAヘリカーゼの関連	引網 亮太	内科学講座(脳神経内科)	1,430,000	補委	日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
Carboxylesterase1を標的とした新規腎脂質代謝改善薬の探索	菅原 翔	内科学講座(糖尿病内分泌・腎臓内科)	1,430,000	補委	日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
先天性QT延長症候群の遺伝子変異に基づく病態評価と治療法の確立	八木 典章	循環器内科	1,385,674	補委	日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
リンパ管蛍光可視化画像によるリンパ流路マッピングとリンパ浮腫ドレナージ手技の評価	服部 聖子	看護部 管理室	1,522,249	補委	日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
ウェアラブルデバイスによるがん化学療法の副作用管理における客観的身体評価法の探索	富田 香	乳腺・一般外科	1,249,727	補委	日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
リアルタイムリンパ管蛍光造影ナビゲーションを用いたリンパ浮腫治療と制御への応用	河合 由紀	外科(消化器・乳腺・一般)	1,275,488	補委	日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
メタボリックシンドロームが非B非C型肝炎発生に寄与するメカニズムの探索	飯田 洋也	外科学講座(消化器外科)	1,300,887	補委	日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)

一般日本人女性におけるCOPDの有病率及び潜在性動脈硬化指標との関連に関する検討	中野 恭幸	内科学講座(呼吸器内科)	1,300,000	補委	日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
ケトン体代謝に着目した糖尿病性腎症の病態解明ならびに新規治療戦略の探索	久米 真司	内科学講座(腎臓内科)	1,300,000	補委	日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
骨肉腫分子病理診断の革新と治療	森谷 鈴子	病理部	1,300,000	補委	日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
好酸球性副鼻腔炎におけるNADPHオキシダーゼの役割	神前 英明	耳鼻咽喉科	1,300,000	補委	日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
肝細胞がん治療薬レンバチニブのTDM確立を目指した臨床薬理学的研究	野田 哲史	薬剤部	1,300,000	補委	日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
SPION-NIの悪性腫瘍低酸素領域を標的としたセラノスティクスへの応用	吉野 芙美	産科学婦人科学講座(女性)	1,296,282	補委	日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
がん増殖関連蛋白GGCTを標的とした腎がんに対する新規治療の開発	窪田 成寿	泌尿器科	1,352,781	補委	日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
消化器癌リンパ節転移における細胞間接着因子Claudinの機能解析	三宅 亨	消化器外科	1,256,442	補委	日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
リアノジン受容体遺伝子異常による遺伝性心臓疾患の病態解明	福山 恵	内科学講座(循環器内科)	1,280,500	補委	日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
代謝型グルタミン酸受容体を介した射精調節メカニズムの解明	馬杉 美和子	泌尿器科	1,097,262	補委	日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
先天性腸疾患における腸管神経系システムの解明	坂井 幸子	外科学講座(乳腺・一般外科)	1,127,769	補委	日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)

難治性不妊治療の臨床応用を 目的とした雄性生殖細胞の改良 法に関する研究	岸田 和美	母子診療科	1,275,731	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)
リアノジン受容体チャネル変異陽 性QT延長症候群の診断と発症 メカニズムに関する研究	藤居 祐介	循環器内科	1,170,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)
ヒト滑膜・軟骨細胞における細胞 膜イオンチャネルを介した関節 症疾患治療戦略の構築	熊谷 康佑	整形外科科学講座	891,699	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)
術中腹腔内散布癌細胞の癌幹 細胞性と腹膜再発に関する研究	児玉 泰一	消化器外科	1,119,909	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)
好酸球性副鼻腔炎と短鎖脂肪 酸による炎症制御機構	當山 昌那	耳鼻咽喉科学講座	1,231,235	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)
生体内で脂肪に置換される吸収 性材料の開発	荻野 秀一	形成外科学講座	1,225,504	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)
癌由来エクソソームの自然免疫 系による腹膜播種抑制メカニズ ムの解明	徳田 彩	腫瘍センター	1,068,977	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)
MRI・蛍光デュアルイメージング を可能にする高分子ポリマー型 造影剤の開発	貝田 佐知子	消化器外科	1,113,742	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)
好酸球性鼻副鼻腔炎の病態に おける自然免疫の役割ーアラー ミンとIL-18について	小河 孝夫	耳鼻咽喉科	1,040,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)
カニクイザル網膜静脈閉塞症モ デルに対するリボソームによる薬 物治療の開発	西信 良嗣	眼科学講座	1,040,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)
スギ免疫療法におけるヒノキ花粉 症非奏効例に対する新規主要 抗原cha o 3の関与	菊岡 弘高	耳鼻咽喉科学講座	1,040,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)

多臓器不全におけるサイトケラチン7(CK7)陽性細胞の役割の解明	加藤 文崇	救急・集中治療部	1,040,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
骨髄由来プロインスリン陽性細胞と老化細胞の関係性の探索	藤野 和典	救急集中治療医学講座	1,040,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
消化管からもグルカゴンが分泌されるか?糖尿病におけるプログルカゴン細胞の役割	藤田 征弘	内科学講座(糖尿病内分泌内科)	996,938	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
膵癌における癌周囲間葉系細胞の分類と機能解析	前平 博充	外科学講座(消化器外科)	1,073,395	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
口腔領域に発生する悪性リンパ腫の診断および治療法選択に関連する因子の探索	岡村 武志	歯科口腔外科	818,602	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
糖尿病性腎臓病を含めた糖尿病患者の実態・リスク・長期予後の時代変遷による影響	横山 宏樹	内科学講座(糖尿病内分泌内科)	1,123,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
病態心における吸入麻酔薬の心筋保護作用の分子基盤と新規心筋保護法への発展	小嶋 亜希子	救急集中治療医学講座	714,086	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
トランスジェニックマウス法による完全ヒト型生物学的製剤の薬理動態解析法の確立	安藤 朗	内科学講座(消化器内科)	910,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
強度近視に伴う黄斑円孔網膜剥離に対する角膜乱視を軽減する強膜短縮術の開発	大路 正人	眼科学講座	910,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
胃の腺上皮化生の発生メカニズムの解明	和田 康宏	臨床検査医学講座	907,021	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
ゲノミクス、プロテオミクス解析による脊柱靱帯骨化の骨化抑制療法の開発	彌山 峰史	整形外科	888,153	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)

慢性子宮内膜炎が子宮内膜免疫担当細胞に及ぼす影響の解析	北澤 純	母子診療科	855,202	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
リソソーム障害に着目した慢性腎臓病における糸球体上皮細胞障害機構の解明	山原 真子	腎臓内科	780,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
転写因子MAFBによる糸球体上皮細胞のオートファジー制御機構の解明	山原 康佑	血液浄化部	780,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
膵島におけるO-GlcNAc修飾の生理学的役割の解明と新規糖尿病治療標的の探索	井田 昌吾	内科学講座(糖尿病内分泌内科)	780,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
癌焼灼療法用発熱材としてのバイオメタルの評価・極小化と焼灼療法器具への応用	新田 哲久	放射線医学講座	780,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
補体活性化に着目した侵襲に伴う中枢神経障害の病態解明と治療法の探索	清水 淳次	救急・集中治療部	780,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
生体吸収性2層性尿管チューブ及び新規尿漏れ防止材による尿管組織の再生	吉田 哲也	泌尿器科学講座	886,915	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
ファージディスプレイ法を用いた新生児低酸素性虚血性脳症に対する新規治療法の開発	樋口 明日香	産科学婦人科学講座	938,806	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
メタゲノム解析を用いた大腸癌肝転移巣における細菌叢解析と病理学的意義の解明	森 治樹	外科(消化器・乳腺・一般)	850,271	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
シヌクレイン-γによる癌転移機序の解明	谷 総一郎	外科学講座(消化器外科)	929,774	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
子どもが育つ地域での要支援度ツールの作成:多機関連携における共通理解のために	澤井 ちひろ	小児科学講座(小児発達支援学部門)	703,433	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)

MAPKシグナルを介するケモカイン抑制による免疫療法抵抗性の解明と克服法の開発	住本 秀敏	臨床腫瘍学講座	511,157	補委	日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
脳動脈瘤モデルサル樹立による脳動脈瘤新規治療法開発基盤整備	辻 敬一	脳神経外科	776,261	補委	日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
多臓器不全における骨髓前駆細胞の役割の解明	田畑 貴久	救急集中治療医学講座	650,000	補委	日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
エネルギー代謝を標的にした転移浸潤性膀胱癌に対する新規抗癌剤の開発	金 哲将	泌尿器科学講座	650,000	補委	日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
子宮平滑筋細胞における細胞容積調節塩素チャネルの妊娠による影響に関する研究	山田 一貴	母子診療科	650,000	補委	日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
遺伝性不整脈疾患における筋小胞体膜蛋白質の遺伝子解析と機能異常	加藤 浩一	循環器内科	650,000	補委	日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
鼻腔洗浄液中の細胞外小胞(エクソソーム、マイクロベシクル)による新規診断法の開発	清水 志乃	耳鼻咽喉科	630,197	補委	日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
ヒト臍帯由来間葉系細胞を用いた新規子宮内膜症治療法の開発	辻 俊一郎	母子診療科	1,135,355	補委	日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
クローン病狭窄病変における腸内細菌叢の網羅的解析	高橋 憲一郎	消化器内科	734,542	補委	日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
癌細胞におけるFAP α 発現の意義の機能解析	清水 智治	医療安全管理部	728,760	補委	日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
シームレスな画像支援を実現するMR・蛍光デュアルイメージング法の開発	仲 成幸	外科学講座(消化器・乳腺・一般外科)	396,869	補委	日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)

上気道炎症に対するエイコサペンタエン酸代謝物の作用についての基礎研究	戸嶋 一郎	耳鼻咽喉科	845,527	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
脳動脈瘤破裂機序の解明	宮田 悠	脳神経外科学講座	661,573	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
医療・医師への信頼性の向上に関する調査研究	倉田 真由美	臨床研究開発センター	327,800	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
慢性疼痛患者のVBM、扁桃体MR Spectroscopyを用いた脳内病態評価	福井 聖	ペインクリニック科	615,816	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
重喫煙者の低線量CT画像による肺気腫の長期にわたる進展評価と関与する遺伝子の同定	中野 恭幸	内科学講座(呼吸器内科)	390,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
シェディング活性化因子ナルディライジンの血管平滑筋収縮機構における役割	木下 武	外科学講座(心臓血管・呼吸器外科)	748,256	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
骨形成不全症治療における、間葉系幹細胞の治療効果に関わる機序の検討	出口 真理	女性診療科	531,734	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
超高精細CTによる肺高血圧症早期診断及び治療効果判定の非侵襲的画像評価法の確立	永谷 幸裕	放射線医学講座	729,460	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
吸入麻酔薬の膜電位依存性イオンチャネルの制御に関わる分子機構の解明	福島 豊	手術部	214,990	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
AIによる、教育と医療で共有可能なADHDスクリーニング及び治療適正化方法の開発	阪上 由子	小児科学講座(小児発達支援学部門)	268,850	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
WPW症候群の顕在化メカニズム解明に向けたシミュレーション研究	芦原 貴司	医療情報部	260,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)

多階層3次元心臓モデルを用いた不整脈誘発性・持続性の評価に関するインシリコ研究	芦原 貴司	医療情報部	260,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)
高度肥満症に対する外科治療の費用対効果に関する研究	山本 寛	外科学講座(消化器・ 乳腺・一般外科)	483,025	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)
非発作性心房細動のリアルタイム映像化とその解析に基づくア ブレーション新戦略の開発	芦原 貴司	医療情報部	522,949	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)
ナノ粒子を用いた新生児低酸素 性虚血性脳症に対する新規治 療法の開発	信田 侑里	母子診療科	465,985	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)
メタゲノム解析を用いた膵線維 化と腸内細菌叢の関連の探索	藤本 剛英	消化器内科	311,361	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)
肺癌に対する放射線化学療法 後デュルバルマブ投与時の肺臓 炎予後予測モデルの構築	内田 泰樹	呼吸器内科	459,186	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)
二重標識水法を用いた筋萎縮 性側索硬化症患者のエネル ギー代謝に関する臨床研究	栗原 美香	栄養治療部	215,366	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)
脳のエネルギー代謝からみる慢 性疼痛のメカニズムの解明	中西 美保	麻酔科	664,740	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)
中鎖脂肪酸投与による腸内細菌 叢と炎症性サイトカインの変化	大崎 理英	内科学講座(消化器・ 血液内科)	130,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)
フライトナースにおける看護活動実 践能力に関する研究	坂口 桃子	麻酔学講座	130,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)
遺伝性不整脈疾患における筋小 胞体膜蛋白質の遺伝子解析と機 能異常	堀江 稔	内科学講座(循環器 内科)	130,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)

SNTA1変異による早期再分極症候群発症メカニズムの解明に関する研究	加藤 浩一	循環器内科	367,124	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
特異的組織標的ペプチドを用いた前立腺癌新規治療法の開発	和田 晃典	泌尿器科	271,542	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
新規リン脂質定量分析法を用いた動脈硬化性冠動脈疾患の発症抑制因子の探索	辻 徳治	薬剤部	90,772	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
遺伝性不整脈を呈する変異体Nav1.5チャネルに対する揮発性麻酔薬の修飾作用	福島 豊	手術部	480,684	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
サルコペニア合併高齢保存期CKD患者の食事療法の開発	武田 尚子	腎臓内科	420,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
サルコペニアと疲労の関連に着目した高齢癌患者の治療指針となるバイオマーカーの探索	河内 明宏	泌尿器科学講座	406,329	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
先天赤緑色覚異常における遺伝子アレーの研究	岩佐 真紀	眼科	160,545	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
小児1型糖尿病患者の自立支援のための自己管理能力・生活環境・生活の質に関する調査	松井 克之	小児科	275,121	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
尿蛋白クレアチニン比を用いた、新たな学校検尿システムの構築	坂井 智行	小児科	380,752	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
好酸球性鼻副鼻腔炎の免疫抑制における制御性T細胞と抑制性サイトカインの役割の解明	山本 小百合	耳鼻咽喉科	247,854	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)
前立腺癌のSuper-Enhancerを介した増殖の分子機構の解明と治療への応用	永澤 誠之	泌尿器科	126,050	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)

ヒストン脱アセチル化酵素 HDAC2,3バランスに着目した抗 うつ効果機構の解明	大久保 雅則	精神医学講座	334,100	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)
心臓チャネル病における麻酔薬 の心臓作用の包括的解析	小嶋 亜希子	救急集中治療医学講 座	301,276	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)
高齢者の術後せん妄の予測に 有用な生体指標の探索研究	吉村 篤	精神科	210,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)
胃酸分泌抑制下におけるC. difficile感染症発症機序の解明と 予防策の構築	大塚 武人	内科学講座(消化器 内科)	210,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)
糖尿病性腎臓病の新規バイオ マーカーとしての尿中NAD代謝 関連分子の検証	荒木 信一	内科学講座(腎臓内 科)	300,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)
敗血症患者における慢性期の自 律神経障害と各種臓器障害の関 係について	宮武 秀光	救急・集中治療部	90,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)
細胞膜イオンチャネルの網羅的 解析による関節変性疾患診断法 および抑制療法の開発	熊谷 康佑	整形外科科学講座	570,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)
III度熱傷後難治性潰瘍に皮膚 ユニットを再生させるための新規 細胞治療の開発	岡野 純子	形成外科学講座	300,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)
弱教師深層学習と計算解剖モデ ルの統合による肝臓がんの診断 支援	金崎 周造	放射線医学講座	45,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)
ヒノキ花粉症の根治を目指すス ギ花粉舌下免疫療法の分子機 序解明のための総合的研究	清水 猛史	耳鼻咽喉科学講座	6,240,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)
ALSに対する一本鎖治療抗体分 泌型オリゴデンドロサイト前駆細 胞移植治療法の開発	漆谷 真	内科学講座(脳神経 内科)	5,720,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)

難治癌の迅速病態診断リキッド バイオプシーの開発とプレジ ョン医療への応用	醍醐 弥太郎	臨床腫瘍学講座	5,070,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)
糖代謝臓器における細胞内糖鎖 修飾の網羅的機能解析ー生理 機能から糖尿病の病態まで	前川 聡	内科学講座(糖尿病 内分泌内科)	3,380,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)
生理機能に基づくレビー小体型 認知症早期診断ウェアラブルデ バイスの開発	角谷 寛	精神医学講座	4,450,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)
連続体バイオメカニクスによる全 脳循環代謝動態の解明と脳血管 障害の病態解析	渡邊 嘉之	放射線医学講座	1,246,140	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)
多機能分子ナルディライジンに 着目した膵癌の病態解明	安川 大貴	消化器外科	1,100,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)
難治性不整脈の病態解明・診 断・治療における位相分散解析 に基づく戦略的制御技術開発	芦原 貴司	医療情報部	1,300,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)
PKおよびPGxに基づくスルファメ トキサゾール・トリメトプリムの個別 投与指針の構築	小出 博義	薬剤部	480,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)
アザチオプリンのPrecision Medicineのための薬理遺伝学・ 薬力学解析	磯野 哲一郎	薬剤部	460,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)
ヒトiPS細胞を用いた新世代統合 的評価法による薬物誘発性不整 脈の病態解析	芦原 貴司	医療情報部	520,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)
子どもの精神病リスク早期スクリー ング・システム運用検証とリスク介入戦 略の構築	松尾 雅博	精神科	390,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)
子どもの精神病リスク早期スクリー ング・システム運用検証とリスク介入戦 略の構築	阪上 由子	小児科学講座(小児 発達支援学部門)	390,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)

子どもの精神病リスク早期スクリーニング・システム運用検証とリスク介入戦略の構築	眞田 陸	精神医学講座	130,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)
体内微生物の脳動脈瘤の発生・破裂への影響の解明と新しい予防医療の開発	野崎 和彦	脳神経外科学講座	130,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)
テンソルスパース表現による多時相CT画像の時空間特徴抽出と肝腫瘍性病変の診断支援	金崎 周造	放射線医学講座	60,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成 事業(学術研究助 成基金助成金)
特定行為研修修了者の複数配置に関する実態把握及び有効活用に影響する要因の調査	北川 裕利	麻酔学講座	3,998,862	補 委	厚生労働科学研 究費補助金
慢性の痛み患者への就労支援/仕事と治療の両立支援および労働生産性の向上に寄与するマニュアルの開発と普及・啓発	福井 聖	ペインクリニック科	600,000	補 委	厚生労働科学研 究費補助金
慢性疼痛患者に対する簡便かつ多面的な疼痛感作評価法の開発	福井 聖	ペインクリニック科	500,000	補 委	厚生労働科学研 究費補助金
「健康づくりのための睡眠指針2014」のブラッシュアップ・アップデートを目指した「睡眠の質」の評価及び向上手法確立のための研究	角谷 寛	精神医学講座	500,000	補 委	厚生労働科学研 究費補助金
先天性骨髄不全症の登録システムの構築と診断基準・重症度分類・診断ガイドラインの確立に関する研究	多賀 崇	小児科学講座	400,000	補 委	厚生労働科学研 究費補助金
スモンに関する調査研究	山川 勇	内科学講座(脳神経内科)	364,606	補 委	厚生労働科学研 究費補助金
難治性炎症性腸管障害に関する調査研究	安藤 朗	内科学講座(消化器内科)	350,000	補 委	厚生労働科学研 究費補助金
医療用麻薬の乱用リスク要因の分析と適正使用促進のための研究	福井 聖	ペインクリニック科	320,000	補 委	厚生労働科学研 究費補助金

医療用麻薬の乱用リスク要因の 分析と適正使用促進のための研究	岩下 成人	ペインクリニック科	320,000	補 委	厚生労働科学研究 費補助金
脊柱靱帯骨化症に関する調査 研究	森 幹士	整形外科科学講座	250,000	補 委	厚生労働科学研究 費補助金
思春期・若年成人(AYA)世代が ん患者の包括的ケア提供体制の 構築に関する研究	河合 由紀	外科(消化器・乳腺・ 一般)	200,000	補 委	厚生労働科学研究 費補助金
慢性疼痛診療システムの均てん 化と痛みセンター診療データ ベースの活用による医療向上を 目指す研究	福井 聖	ペインクリニック科	200,000	補 委	厚生労働科学研究 費補助金
小児期・移行期を含む包括的対 応を要する希少難治性肝胆膵疾 患の調査研究	丸尾 良浩	小児科学講座	200,000	補 委	厚生労働科学研究 費補助金
小児・AYA世代がん患者に対す る生殖機能温存に関わる心理支 援体制の均てん化と安全な長期 検体保管体制の確立を志向した 研究－患者本位のがん医療の 実現を目指して	木村 文則	産科学婦人科学講座 (女性)	100,000	補 委	厚生労働科学研究 費補助金
ピロリ菌除菌後健康人を対象とし た世界初エピゲノム発がんリスク 診断の実用化	稲富 理	消化器内科	1,391,000	補 委	国立研究開発法 人国立がん研究セ ンター
湖東圏域における発達障害に関 する調査及び支援事業	竹内 義博	小児科学講座(小児 発達支援学部門)	9,800,000	補 委	湖東圏域(愛荘 町、多賀町、甲良 町、豊郷町)代表 豊郷町
運動の生活カルチャー化により 活力ある未来をつくるアクティブ・ フォー・オール拠点	今井 晋二	整形外科科学講座	1,300,000	補 委	国立研究開発法 人科学技術振興 機構
リン脂質とスフィンゴ脂質・中性 脂質の酵素蛍光定量法および 膜脂質非対称分布評価法の開 発	森田 真也	薬剤部	19,500,000	補 委	国立研究開発法 人日本医療研究 開発機構
がん増殖に関与するアミノ酸代 謝の新規阻害例の探索	影山 進	泌尿器科	15,948,900	補 委	国立研究開発法 人日本医療研究 開発機構

ダウン症合併骨髄性白血病に対する標準的治療法の確立	多賀 崇	小児科学講座	9,230,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
電子カルテ情報活用型多施設症例データベースを利用した糖尿病に関する臨床情報収集に関する研究(J-DREAMS)	前川 聡	内科学講座(糖尿病内分泌内科)	300,000	補 委	国立研究開発法人国立国際医療研究センター
不妊症患者の実態と生殖補助医療技術による妊孕性の向上に関する研究	村上 節	産科学婦人科学講座(母子)	5,000,000	補 委	滋賀県
HIV感染者等保健福祉相談事業	安藤 朗	内科学講座(消化器内科)	750,000	補 委	公益財団法人エイズ予防財団
小児血液腫瘍分野における治療開発	多賀 崇	小児科学講座	3,000,000	補 委	国立研究開発法人国立がん研究センター
難治性神経疾患における免疫病態の解明と診断・治療法開発	漆谷 真	内科学講座(脳神経内科)	500,000	補 委	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
EGFR遺伝子変異陽性非小細胞肺癌(扁平上皮癌を除く)におけるDacomitinib誘発皮膚有害事象の予防治療を評価する第Ⅱ相試験(SPIRAL-Daco study)	内田 泰樹	呼吸器内科	231,000	補 委	一般社団法人九州臨床研究支援センター
ケトン体を用いた糖尿病併発症への予防・治療法の開発	久米 真司	内科学講座(腎臓内科)	3,250,000	補 委	国立研究開発法人科学技術振興機構
肝癌・非代償性肝硬変患者データベース構築	谷 眞至	外科学講座(消化器外科)	67,320	補 委	一般社団法人National Clinical Database

計9件

総計184件

- (注)
- 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
 - 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
 - 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Kato K, Ohno S, Sonoda K, et al.	循環器内科	LMNA Missense Mutation Causes Nonsense-Mediated mRNA Decay and Severe Dilated Cardiomyopathy	Circulation: Genomic and Precision Medicine. 2020 Oct; 13(5): 435-443	Original Article
2	Kato K, Ozawa T, Ohno S, et al.	循環器内科	Postoperative supraventricular tachycardia and polymorphic ventricular tachycardia due to a novel SCN5A variant: a case report of a rare comorbidity that is difficult to diagnose	BMC Cardiovascular Disorders. 2020 Jul 2; 20(1): 315	Case Report
3	Sawayama Y, Ozawa T, Ohno S, et al.	循環器内科	Comparison Between Clopidogrel and Prasugrel Associated With CYP2C19 Genotypes in Patients Receiving Percutaneous Coronary Intervention in a Japanese Population	Circulation Journal. 2020 Aug 25; 84(9): 1575-1581	Original Article
4	Ohno S, Ozawa J, Fukuyama M, et al.	循環器内科	An NGS-based genotyping in LQTS; minor genes are no longer minor.	Journal of Human Genetics. 2020 Dec; 65(12): 1083-109	Original Article
5	Kinose D, Ogawa E, Kawashima S, et al.	呼吸器内科	An index of the fractal characteristic of an airway tree is associated with airflow limitations and future body mass index reduction in COPD patients.	Journal of Applied Physiology. 2020 May 1; 128(5): 1280-1286	Original Article
6	Nakagawa H, Otoshi R, Isomoto K, et al.	呼吸器内科	Relationship of flow-volume curve pattern on pulmonary function test with clinical and radiological features in idiopathic pulmonary fibrosis.	BMC Pulmonary Medicine. 2020 Aug 12; 20(1): 214	Original Article
7	Uchida Y, Tsugawa T, Tanaka-Mizuno S, et al.	呼吸器内科	Prediction of radiation pneumonitis using dose-volume histogram parameters with high attenuation in two types of cancer: A retrospective study.	PloS ONE. 2020 Dec (オンライン)	Original Article

計7件

8	Inatomi O, Bamba S, Nakai Y, et al.	消化器内科	Diagnostic Value of Serum Amylase Levels Indicating Computed Tomography-Defined Post-Endoscopic Retrograde Cholangiopancreatography Pancreatitis: A Prospective Multicenter Observational Study	Pancreas. 2020 Aug; 49(7): 955-959	Original Article
9	Murata M, Inatomi O, Ono K, et al.	消化器内科	A case of life-threatening small intestinal bleeding accompanied by lower coagulation factor XIII activity	Clinical Journal of Gastroenterology. 2020 Dec; 13(6): 1178-1182	Original Article
10	Ohno M, Hasegawa M, Hayashi A, et al.	消化器内科	Lipopolysaccharide O structure of adherent and invasive Escherichia coli regulates intestinal inflammation via complement C3	PLoS Pathogens. 2020 Oct (オンライン)	Original Article
11	Shintani S, Inatomi O, Takeda Y, et al.	消化器内科	Utility and safety of a new uneven double-lumen sphincterotomy in cases of difficult biliary cannulation	BMC Gastroenterology. 2021 Mar 4; 21(1): 102	Original Article
12	Shintani S, Maehira H, Inatomi O, et al.	消化器内科	Peroral pancreatoscopy via the minor papilla in the diagnosis of intraductal papillary mucinous neoplasm	VideoGIE. 2020 Aug; 5(12): 673-675	Original Article
13	Ban H, Inatomi O, Murata M, et al.	内科学講座(消化器・血液内科)	Vonoprazan vs lansoprazole for the treatment of artificial gastric ulcer after endoscopic submucosal dissection: a prospective randomized comparative study	Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition. 2020 Dec; 68(3): 259-263	Original Article
14	Morita Y, Imai T, Bamba S, et al.	内科学講座(消化器・血液内科)	Clinical relevance of innovative immunoassays for serum ustekinumab and anti-ustekinumab antibody levels in Crohn's disease	Journal of Gastroenterology and Hepatology. 2020 Jul; 35(7): 1163-1170	Original Article
15	Morita Y, Bamba S, Inatomi O, et al.	内科学講座(消化器・血液内科)	Prototype single-balloon enteroscopy with passive bending and high force transmission improves depth of insertion in the small intestine	Intestinal Research. 2020 Apr; 18(2): 229-237	Original Article

計8件

16	Nishino K, Nishida A, Inatomi O. et al.	内科学講座(消化器・血液内科)	Targeted deletion of Atg5 in intestinal epithelial cells promotes dextran sodium sulfate-induced colitis	Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition. 2021 Mar; 68(2): 156-163	Original Article
17	Sugitani Y, Nishida A, Inatomi O. et al.	内科学講座(消化器・血液内科)	Sodium absorption stimulator proctasin (PRSS8) has an anti-inflammatory effect via downregulation of TLR4 signaling in inflammatory bowel disease	Journal of Gastroenterology. 2020 Apr; 55(4): 408-417	Original Article
18	Sugitani Y, Inoue R, Inatomi O. et al.	内科学講座(消化器・血液内科)	Mucosa-associated gut microbiome in Japanese patients with functional constipation.	Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition. 2021 Mar; 68(2): 187-192	Original Article
19	Imai T, Kawahara M, Tatsumi G, et al.	光学医療診療部	Thiopurine Use During Pregnancy Has Deleterious Effects on Offspring in Nudt15 R138C Knock-In Mice	Cellular and Molecular Gastroenterology and Hepatology. 2021 Mar 23; 12(1): 335-337	Original Article
20	Fujishiro A, Iwasa M, Fujii S, et al.	血液内科	Menatetrenone facilitates hematopoietic cell generation in a manner that is dependent on human bone marrow mesenchymal stromal/stem cells.	International Journal of Hematology. 2020 Sep; 112(3): 316-330	Original Article
21	Iwasa M, Fujii S, Fujishiro A, et al.	血液内科	Impact of 2 Gy gamma-irradiation on the hallmark characteristics of human bone-derived MSCs.	International Journal of Hematology. 2021 Jan 1; 113(5): 703-711	Original Article
22	Minamiguchi H, Fujita H, Fujita H, et al.	内科学講座(血液内科)、輸血部、無菌治療部	Predictors of early death, serious hemorrhage and differentiation syndrome in Japanese patients with acute promyelocytic leukemia.	Annals of Hematology. 2020 Dec; 99(12): 2787-2800	Original Article
23	Miyazawa I, Morino K, Fuse K, et al.	糖尿病内分泌内科	Impact of obesity on underreporting of energy intake in type 2 diabetic patients: Clinical Evaluation of Energy Requirements in Patients with Diabetes Mellitus (CLEVER-DM) study	Clinical Nutrition ESPEN. 2020 Oct; 39: 251-254	Original Article

計8件

24	Morino K, Maegawa H	糖尿病内分泌内科	Role of O-linked N-acetylglucosamine in the homeostasis of metabolic organs, and its potential links with diabetes and its complication	Journal of Diabetes Investigation. 2021 Feb; 12(2): 130-136	Original Article
25	Yanagimachi T, Fujita Y, Takeda Y, et al.	糖尿病内分泌内科	Receptor-Mediated Bioassay Reflects Dynamic Change of Glucose-Dependent Insulinotropic Polypeptide by Dipeptidyl Peptidase 4 Inhibitor Treatment in Subjects With Type 2 Diabetes	Frontiers in Endocrinology. 2020 Apr; 11: 214	Original Article
26	Fujita Y, Atageldiyeva K K, Takeda Y, et al.	糖尿病内分泌内科	A Low-Carbohydrate Diet Improves Glucose Metabolism in Lean Insulinopenic Akita Mice Along With Sodium-Glucose Cotransporter 2 Inhibitor	Frontiers in Endocrinology. 2020 Dec; 11: 601594	Original Article
27	Maegawa H, Ishigaki Y, Langer J, et al.	糖尿病内分泌内科	Clinical inertia in patients with type 2 diabetes treated with oral antidiabetic drugs: Results from a Japanese cohort study (JDDM53)	Journal of Diabetes Investigation. 2021 Mar; 12(3): 374-381	Original Article
28	Kume S, Maegawa H.	腎臓内科	Lipotoxicity, Nutrient-Sensing Signals, and Autophagy in Diabetic Nephropathy.	JMA Journal. 2020 Apr 15; 3(2): 87-94	Original Article
29	Takeda N, Araki SI, Chin-Kanasaki M, et al	腎臓内科	Contrast medium-induced severe thrombocytopenia in patient on maintenance hemodialysis: a case report and literature review	CEN Case Reports. 2020 Aug; 9(3): 266-270	Original Article
30	Tomita I, Kume S, Sugahara S, et al.	腎臓内科	SGLT2 Inhibition Mediates Protection from Diabetic Kidney Disease by Promoting Ketone Body-Induced mTORC1 Inhibition	Cell Metabolism. 2020 Sep 1; 32(3): 404-419	Original Article
31	Yoshibayashi M, Kume S, Yasuda-Yamahara M, et al.	腎臓内科	Protective role of podocyte autophagy against glomerular endothelial dysfunction in diabetes	Biochemical and Biophysical Research Communications. 2020 Apr 30; 525(2): 319-325	Original Article

計8件

32	Yasuda- Yamahara M, Kume S, Maegawa H.	医師臨床教育センター	Roles of mTOR in Diabetic Kidney Disease.	Antioxidants (Basel, Switzerland). 2021 Feb (オン ライン)	Original Article
33	Nakamura R, Kitamura A, Tsukamoto T. et al.	脳神経内科	The Effect of Intravenous Methylprednisolone on Recurrent Exacerbation in Hematologic Malignancy- associated Progressive Multifocal Leukoencephalopathy	Internal Medicine (Tokyo, Japan). 2020 Nov 23; 60(8): 1287-1291	Case Report
34	Nakamura R, Kitamura A, Tsukamoto T, et al.	脳神経内科	Spinal Muscular Atrophy Type 3 Showing a Specific Pattern of Selective Vulnerability on Muscle Ultrasound	Internal Medicine (Tokyo, Japan). 2021 Jan (オンライ ン)	Case Report
35	Tamura R, Ohara N, Murakami Y, et al.	脳神経内科	Acute Internal Carotid Artery Occlusion Long after Carotid Revascularization by Vein Graft	Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases. 2020 Dec; 29(12): 105391	Case Report
36	Nakamura M, Takano A, Thang PM, et al.	臨床腫瘍学講座	Characterization of KIF20A as a prognostic biomarker and therapeutic target for different subtypes of breast cancer	International Journal of Oncology. 2020 Jul; 57(1): 277-288	Original Article
37	Teramoto K, Igarashi T, Kataoka Y, et al.	臨床腫瘍学講座	Biphasic prognostic significance of PD-L1 expression status in patients with early- and locally advanced-stage non-small cell lung cancer	Cancer Immunology, Immunotherapy. 2020 Oct (オンライン)	Original Article
38	Taga T, Tanaka S, Hasegawa D, et al.	小児科	Post-induction MRD by FCM and GATA1-PCR are significant prognostic factors for myeloid leukemia of Down syndrome	Leukemia. 2021 Feb (オンラ イン)	Original Article
39	Sakai T, Nomura Y, Sawai T, et al.	小児科	Uptake of further investigations following universal urinary screening among elementary and junior high school students in Shiga Prefecture, Japan: A retrospective cohort study	Nephrology (Carlton, Vic.). 2020 Aug; 25(8): 599-606	Original Article

計8件

40	Sato T, Satooka H, Ichioka S, et al.	小児科	Citrullinated fibrinogen is a target of auto-antibodies in interstitial lung disease in mice with collagen-induced arthritis	International Immunology. 2020 Jul 28; 32(8): 533-545	Original Article
41	Koshida S, Takahashi K.	総合周産期母子医療センター	Reply to letter to the Editor regarding "Counting fetal movement frequency to prevent adverse fetal outcomes"	Women and Birth. 2020 May (オンライン)	Others
42	Yukiyoshi Sumi, Chikao Nakayama, Hiroshi Kadotani, et al.	精神科	Resting Heart Rate Variability Is Associated With Subsequent Orthostatic Hypotension: Comparison Between Healthy Older People and Patients With Rapid Eye Movement Sleep Behavior Disorder	Frontiers in Neurology. 2020 Nov 23; 11: 567984	Original Article
43	Kadotani H.	精神科	Localization of international standards	Sleep and Biological Rhythms. 2020 June 13; 18(3): 159	Others
44	Fujimoto N, He Y, D'Addio M, et al.	皮膚科	Single-cell mapping reveals new markers and functions of lymphatic endothelial cells in lymph nodes	PLoS Biology. 2020 Apr 6 (オンライン)	Original Article
45	Fuse M, Koike T, Nakanishi T, et al.	皮膚科	Unicentric subcutaneous Castleman disease in the upper extremity: a case study and review of the literature	European Journal of Dermatology. 2020 Oct 1; 30(5): 617-618	Original Article
46	Kokubu H, Nishikawa J, Kato T, et al.	皮膚科	Sézary syndrome involving the intestinal tract.	Clinical and Experimental Dermatology. 2020 Jun; 45(4): 466-469	Case Report
47	Kokubu H, Nishikawa J, Kato T, et al.	皮膚科	Paraneoplastic Pemphigus Mimicking Toxic Epidermal Necrolysis Associated with Follicular Lymphoma: Possible Pathological Role of CD8 T Cells	Acta dermato-venereologica. 2020 Jul 2; 100(14): adv00204	Original Article

計8件

48	Takahashi T, Kabuto M, Nakanishi G, et al.	皮膚科	Histological and quantitative polymerase chain reaction-based analysis of Buruli ulcer using mapping biopsy method	PLoS neglected Tropical Diseases. 2020 Jun 22 (オンライン)	Original Article
49	Iida H, Tani M, Aihara T, et al.	消化器外科	New metastasectomy criteria for peritoneal metastasis of hepatocellular carcinoma: A study of the Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery	Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic sciences. 2020 Oct; 27(10): 673-681	Original Article
50	Iida H, Osaki R, Matsubara A, et al.	消化器外科	Two cases of benign hepatic nodules caused by sinusoidal dilatation with different hemodynamics	Clinical Journal of Gastroenterology. 2020 Oct; 13(5): 873-881	Original Article
51	Iida H, Miyake T, Tani M, et al.	消化器外科	Cerebellar hemorrhage in patients treated with edoxaban for portal vein thrombosis after hepatobiliary surgery: a report of two cases	Surgical Case Reports. 2020 Dec 10; 6(1): 319	Original Article
52	Iida H, Kaibori M, Hirokawa F, et al.	消化器外科	New Hepatic Resection Criteria for Intermediate-Stage Hepatocellular Carcinoma Can Improve Long-Term Survival: A Retrospective, Multicenter Collaborative Study	Asian Pacific Journal of Cancer Prevention. 2020 Oct 1; 21(10): 2903-2911	Original Article
53	Kaida S, Miyake T, Shimizu T, et al.	消化器外科	Experience and technique of simultaneous robotic resection for synchronous advanced gastric and rectal cancers: a case report	Surgical Case Reports. 2020 Jul 10; 6(1): 169	Original Article
54	Kaida S, Murakami Y, Ohta S, et al.	消化器外科	A Novel Technique to Predict Liver Damage After Laparoscopic Gastrectomy From the Stomach Volume Overlapping the Liver by Preoperative Computed Tomography	World Journal of Surgery. 2020 Sep; 44(9): 3052-3060	Original Article
55	Kaida S, Miyake T, Murata S, et al.	消化器外科	A Prospective Multicenter Observational Study of Venous Thromboembolism after Gastric Cancer Surgery (SHISA-1601)	European Surgical Research. 2021 Mar 3; 62(1): 10-17	Original Article

計8件

56	Maehira H, Iida H, Matsunaga T, et al.	消化器外科	The location of perianastomotic fluid collection predicts postoperative complications after pancreaticoduodenectomy	Langenbeck's Archives of Surgery. 2020 May; 405(3): 325-336	Original Article
57	Miyake T, Iida H, Shimizu T, et al.	消化器外科	The Elevation in Preoperative Procalcitonin Is Associated with a Poor Prognosis for Patients Undergoing Resection for Colorectal Cancer	Digestive Surgery. 2020 Nov; 38(1): 80-86	Original Article
58	Tokuda A, Miyake T, Yasukawa D, et al.	消化器外科	Cancer-derived Exosomes Activate Immune Surveillance and Suppress Peritoneal Metastasis of Murine Colonic Cancer.	Anticancer Research. 2021 Mar; 41(3): 1327-1339	Original Article
59	Ueki T, Miyake T, Narita M, et al.	消化器外科	IgG4-related focal retroperitoneal fibrosis in ureter suggestive of colon cancer recurrence and resected laparoscopically: a case report	Surgical Case Reports. 2020 Aug 3; 6(1): 197	Original Article
60	Yamaguchi T, Yamamoto H, Tomozawa Y, et al.	消化器外科	Geometry of Sleeve Gastrectomy Measured by 3D CT Versus Weight Loss: Preliminary Analysis	World Journal of Surgery. 2021 Jan; 45(1): 235-242	Original Article
61	Iida H, Maehira H, Mori H, et al.	消化器外科	New Hepatic Resection Criteria for Intermediate-Stage Hepatocellular Carcinoma Can Improve Long-Term Survival: A Retrospective, Multicenter Collaborative Study	Asian Pacific Journal of Cancer Prevention. 2020 Oct 1; 21(10): 2903-2911	Original Article
62	Maehira H, Iida H, Maekawa T, et al.	消化器外科	Estimated functional remnant pancreatic volume predicts nonalcoholic fatty liver disease after pancreaticoduodenectomy: use of computed tomography attenuation value of the pancreas	HPB : the official journal of the International Hepato Pancreato Biliary Association. 2020 Oct 10; 23(5): 802-811	Original Article
63	Maehira H, Iida H, Mori H, et al.	消化器外科	Superior perianastomotic fluid collection in the early postoperative period affects pseudoaneurysm occurrence after pancreaticoduodenectomy	Langenbeck's Archives of Surgery. 2021 Jan 3 (オンライン)	Original Article

計8件

64	Ueki T, Miyake T, Kojima M, et al.	消化器外科	Comparison of self-expandable metallic stent placement followed by laparoscopic resection and elective laparoscopic surgery without stent placement for left-sided colon cancer	Annals of Gastroenterological Surgery. 2021 Jan 15; 5(3): 338-344	Original Article
65	Junko Okano, Yuki Nakae, Takahiko Nakagawa, et al.	形成外科	A novel role for bone marrow-derived cells to recover damaged keratinocytes from radiation-induced injury	Scientific Reports. 2021 Mar; 11(1): 5653	Original Article
66	Tomoaki Suzuki, Hisakazu Ogita, Akira Sato, et al.	心臓血管外科	Differences Between Patients with and without Atherosclerosis in Expression Levels of Inflammatory Mediators in the Adipose Tissue Around the Coronary Artery	International Heart Journal. 2021 Mar 30; 62(2): 390-395	Original Article
67	Fumihito Miyashita, Takeshi Kinoshita, Tomoaki Suzuki, et al.	心臓血管外科	Respiratory Failure after Open Descending Aortic Aneurysm Repair: Risk Factors and Outcomes	Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery. 2021 Feb 20; 27(1): 41-48	Original Article
68	Masahide Enomoto, Tomoaki Suzuki, Takeshi Kinoshita, et al.	心臓血管外科	Outcomes of surgical treatment for active infective endocarditis of mitral valve compared using complexity scoring	General Thoracic and Cardiovascular Surgery. 2021 Mar; 69(3): 434-443	Original Article
69	Masahide Enomoto, Takeshi Kinoshita, Yasuo Kondo, et al.	心臓血管外科	Cardiac Surgery Using Hypothermic Circulatory Arrest in a Case of Essential Thrombocythemia	Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery. 2020 Oct 21; 26(5): 290-293	Case Report
70	Masahide Enomoto, Takeshi Kinoshita, Noriyuki Takashima, et al.	心臓血管外科	Surgical treatment for secondary aorto-esophageal fistula after prosthetic aortic replacement: A report of four cases	International Journal of Surgery Case Reports. 2020 Aug 29; 75: 37-41	Original Article
71	Kohei Hachiro, Takeshi Kinoshita, Tomoaki Suzuki, et al.	心臓血管外科	In situ skeletonized gastroepiploic artery grafting in hemodialysis patients	General Thoracic and Cardiovascular Surgery. 2020 Nov; 68(11): 1319-1324	Original Article

計8件

72	Kohei Hachiro, Takeshi Kinoshita, Tohru Asai, et al.	心臓血管外科	Impact of Mitral Surgery for Mitral Regurgitation on Coexisting Aortic Regurgitation	Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery. 2020 Apr 20; 26(2): 79-83	Original Article
73	Kohei Hachiro, Takeshi Kinoshita, Tomoaki Suzuki, et al.	心臓血管外科	Impact of vital capacity on outcome after total arch replacement.	General Thoracic and Cardiovascular Surgery. 2020 Sep; 68(9): 951-955	Original Article
74	Kohei Hachiro, Takeshi Kinoshita, Tomoaki Suzuki, et al.	心臓血管外科	Bilateral internal thoracic artery grafting in haemodialysis patients with diabetic nephropathy	Interactive Cardiovascular and Thoracic Surgery. 2020 Dec 7; 31(6): 774-780	Original Article
75	Kohei Hachiro, Takeshi Kinoshita, Tomoaki Suzuki, et al.	心臓血管外科	Total arch replacement in patients with chronic kidney disease.	Journal of Cardiac Surgery. 2021 Feb; 36(2): 475-482	Original Article
76	Takeshi Kinoshita, Hitoshi Yoshida, Kohei Hachiro, et al.	心臓血管外科	Spinal cord collateral flow during antegrade cerebral perfusion for aortic arch surgery	The Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery. 2020 Jul; 160(1): 37-43	Original Article
77	Yuji Matsubayashi, Noriyuki Takashima, Yasuo Kondo, et al.	心臓血管外科	Infected Aortic Aneurysm Caused by Streptococcus zooepidemicus: A Case Report and Literature Review	Annals of Vascular Diseases. 2021 Mar 25; 14(1): 71-74	Original Article
78	Jun Hanaoka, Yo Kawaguchi, Keigo Okamoto, et al.	呼吸器外科	Right sleeve pneumonectomy for local recurrent lung cancer following right sleeve upper lobectomy with bronchoplasty: a case report	Journal of Cardiothoracic Surgery. 2020 Jun 9; 15(1): 130	Case Report
79	Jun Hanaoka, Makoto Yoden, Kazuki Hayashi, et al	呼吸器外科	Dynamic perfusion digital radiography for predicting pulmonary function after lung	World Journal of Surgical Oncology. 2021 Feb 9; 19(1): 43	Original Article

計8件

80	Ryosuke Kaku, Makoto Yoden, Takuya Shiratori, et al.	呼吸器外科	Perioperative changes in respiratory impedance in lobectomy and their clinical impact	Journal of Thoracic Disease. 2021 Mar; 13(3): 1347-1357	Original Article
81	Keigo Okamoto, Kazuki Hayashi, Ryosuke Kaku, et al.	呼吸器外科	Airway inflammation and lung function recovery after lobectomy in patients with primary lung cancer	General Thoracic and Cardiovascular Surgery. 2021 Feb; 69(2): 297-302	Original Article
82	Keigo Okamoto, Kazuki Hayashi, Ryosuke Kaku, et al.	呼吸器外科	Impact of fractional exhaled nitric oxide on the outcomes of lung resection surgery:	Journal of Thoracic Disease. 2020 May; 12(5): 2663-2671	Original Article
83	Yo Kawaguchi, Jun Hanaoka, Yasuhiko Ohshio, et al.	呼吸器外科	Survival and prognostic factors in patients undergoing extended pulmonary metastasectomy	Molecular and Clinical Oncology. 2020 Nov; 13(5): 48	Original Article
84	Yo Kawaguchi, Jun Hanaoka, Kazuki Hayashi	呼吸器外科	Feasibility of early removal of chest tube in the operating room for spontaneous pneumothorax: A prospective randomized controlled study	Asian Journal of Surgery. 2021 Jan; 44(1): 339-344	Original Article
85	Yo Kawaguchi, Jun Hanaoka	呼吸器外科	Cytoreductive Surgery and Hyperthermic Chemotherapy for Intrathoracic Pseudomyxoma Peritonei	The Annals of Thoracic Surgery. 2020 Dec (オンライン)	Case Report
86	Yo Kawaguchi, Jun Hanaoka, Yasuhiko Ohshio, et al.	呼吸器外科	Does sarcopenia affect postoperative short- and long-term outcomes in patients with lung cancer?-a systematic review and meta-analysis	Journal of Thoracic Disease. 2021 Mar; 13(3): 1358-1369	Original Article
87	Shigeki Yamada, Masatsune Ishikawa, Hiroataka Ito, et al.	脳神経外科	Cerebrospinal fluid dynamics in idiopathic normal pressure hydrocephalus on four- dimensional flow imaging	European Radiology. 2020 Aug; 30(8): 4454-4465	Original Article

計8件

88	Shigeki Yamada, Yukihiro Aoyagi, Masatsune Ishikawa, et al.	脳神経外科	Gait Assessment Using Three-Dimensional Acceleration of the Trunk in Idiopathic Normal Pressure Hydrocephalus	Frontiers in Aging Neuroscience. 2021 Mar 10; 13: 653964	Original Article
89	S Yamada, H Ito, M Ishikawa, et al.	脳神経外科	Quantification of Oscillatory Shear Stress from Reciprocating CSF Motion on 4D Flow Imaging	American Journal of Neuroradiology. 2021 Mar; 42(3): 479-486	Original Article
90	Hideaki Kouzaki, Masahiko Arikata, Matsumoto Koji, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Dynamic change of anti-inflammatory cytokine IL-35 in allergen immune therapy for Japanese cedar pollinosis	Allergy. 2020 Apr; 75(4): 981-983	Original Article
91	Takao Ogawa, Keigo Nakamura, Sayuri Yamamoto, et al	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Recovery over time and prognostic factors in treated patients with post-infectious olfactory dysfunction: a retrospective study	The Annals of Otolaryngology, Rhinology, and Laryngology. 2020 Oct; 129(10): 977-982	Original Article
92	Shigehisa Kubota, Tetsuya Yoshida, Susumu Kageyama, et al.	泌尿器科	A risk stratification model based on four novel biomarkers predicts prognosis for patients with renal cell carcinoma	World Journal of Surgical Oncology. 2020 Oct 22; 18(1): 270	Original Article
93	Miwako Masugi-Tokita, Keiji Tomita, Kenichi Kobayashi, et al.	泌尿器科	Metabotropic Glutamate Receptor Subtype 7 Is Essential for Ejaculation.	Molecular Neurobiology. 2020 Dec; 57(12): 5208-5218	Original Article
94	Masayuki Nagasawa, Kosuke Tomimatsu, Koji Terada, et al.	泌尿器科	Long non-coding RNA MANCR is a target of BET bromodomain protein BRD4 and plays a critical role in cellular migration and invasion abilities of prostate cancer	Biochemical and Biophysical Research Communications. 2020 May 21; 526(1): 128-134	Original Article
95	Ryo Ikari, Ken-Ichi Mukaisho, Susumu Kageyama, et al.	泌尿器科	Differences in the Central Energy Metabolism of Cancer Cells between Conventional 2D and Novel 3D Culture Systems	International Journal of Molecular Sciences. 2021 Feb (オンライン)	Original Article

計8件

96	Tsunehiro Horii, Hiroyuki Tsujimoto, Susumu Kageyama, et al.	泌尿器科	The usefulness of re-attachability of anti-adhesive cross-linked gelatin film and the required physical and biological properties	Bio-medical Materials and Engineering. 2020 Dec 11; 31(6): 351-360	Original Article
97	Susumu Kageyama, Koki Maeda, Shigehisa Kubota, et al.	泌尿器科	Single Short Retention Instillation of Pirarubicin Prevents Intravesical Recurrence	In Vivo (Athens, Greece). 2021 Mar; 35(2): 1141-1145	Original Article
98	Yusuke Ichiyama Shumpei Obata, Yoshitsugu Saishin, et al.	眼科	The systemic antiangiogenic effect of intravitreal aflibercept injection in a mouse model of retinopathy of prematurity	FASEB Journal. 2021 Mar (オンライン)	Original Article
99	Masahito Ohji, Paolo Lanzetta, Jean-Francois Korobelnik, et al.	眼科学講座	Efficacy and Treatment Burden of Intravitreal Aflibercept Versus Intravitreal Ranibizumab Treat-and-Extend Regimens at 2 Years: Network Meta-Analysis Incorporating Individual Patient Data Meta-Regression and Matching-Adjusted Indirect Comparison	Advances in Therapy. 2020 May; 37(5): 2184-2198	Original Article
100	Osamu Sawada, Takamasa Mori, Yusuke Ichiyama, et al.	眼科	An Attachment Including a +20-D Lens to Gain Extended Field Images in Wide-Angle Optical Coherence Tomography Angiography	Journal of VitreoRetinal Diseases. 2020 June 1; 4(3): 210-213	Original Article
101	Tomoko Sawada, Tsutomu Yasukawa, Hiroko Imaizumi, et al.	眼科	Ten-year changes in visual acuity at baseline and at 2 years after treatment in a Japanese population with age-related macular degeneration	Graefe's Archive for Clinical and Experimental Ophthalmology. 2020 Nov 17; 259(5): 1191-1198	Original Article
102	Mai Akazawa, Miho Nakanishi, Narumi Miyazaki, et al.	麻酔科	Utility of the FloTrac™ Sensor for Anesthetic Management of Laparoscopic Surgery in a Patient After Pneumonectomy: A Case Report and Literature Review	The American Journal of Case Reports. 2020 Dec 4 (オンライン)	Case Report
103	Kazuki Ito, Masahiro Uetsu, Hiroshi Kadotani 3人	麻酔科	Validation of Oximetry for Diagnosing Obstructive Sleep Apnea in a Clinical Setting.	Clocks & Sleep. 2020 Aug 29; 2(3): 364-374	Original Article

計8件

104	Kazuki Ito, Hiroshi Kadotani, Isa Okajima, et al.	麻酔科	Large Questionnaire Survey on Sleep Duration and Insomnia Using the TV Hybridcast System by Japan Broadcasting Corporation (NHK)	International Journal of Environmental Research and Public Health. 2021 Mar 7 (オンライン)	Original Article
105	Akiko Kojima, Yutaka Fukushima, Hideki Itoh, et al.	麻酔科	A computational analysis of the effect of sevoflurane in a human ventricular cell model of long QT syndrome: Importance of repolarization reserve in the QT-prolonging effect of sevoflurane.	Eur J Pharmacol. 2020 Sep 15 (オンライン)	Original Article
106	Yutaka Fukushima, Akiko Kojima, Xinya Mi, et al.	麻酔科 (手術部)	Open-channel blocking action of volatile anaesthetics desflurane and sevoflurane on human voltage-gated Kv 1.5 channel.	Br J Pharmacol. 2020 Aug (オンライン)	Original Article
107	Yukihiro Nagatani, Masayuki Hashimoto, Yasuhiko Oshio, et al.	放射線科	Preoperative assessment of localized pleural adhesion: Utility of software-assisted analysis on dynamic- ventilation computed tomography	European Journal of Radiology. 2020 Dec; 133: 109347	Original Article
108	Sayaka Watase, Akinaga Sonoda, Noritsugu Matsutani, et al.	放射線科	Evaluation of intrathoracic tracheal narrowing in patients with obstructive ventilatory impairment using dynamic chest radiography: A preliminary study	European Journal of Radiology. 2020 Aug; 129: 109141	Original Article
109	Akitoshi Inoue, Shinichi Ota, Norihiisa Nitta, et al.	放射線科	Difference of computed tomographic characteristic findings between gastric and	Japanese Journal of Radiology. 2020 Aug; 38(8): 771-781	Original Article
110	Akitoshi Inoue, Norihiisa Nitta, Shinichi Ota, et al.	放射線科	MR Imaging-based Evaluation of Mesenteric Ischemia Caused by Strangulated Small Bowel Obstruction and Mesenteric Venous Occlusion: An Experimental Study Using Rabbits	Magnetic Resonance in Medical Sciences. 2020 May 1; 19(2): 125-134	Original Article
111	Akitoshi Inoue, Akira Furukawa, Kai Takaki, et al.	放射線科	Noncontrast MRI of acute abdominal pain caused by gastrointestinal lesions: indications, protocol, and image interpretation	Japanese Journal of Radiology. 2021 Mar; 39(3): 209-224	Original Article

計8件

112	Akitoshi Inoue, Akira Furukawa, Norihisa Nitta, et al	放射線科	Optimization of pulse sequences in ultrafast magnetic resonance imaging for the diagnosis of acute abdominal pain caused by gastrointestinal disease	Acta Radiologica Open. 2020 Aug; 9(8): 1-9	Original Article
113	Akitoshi Inoue, Erina Yoshida, Akinori Otsuki, et al.	放射線科	Letter to Editor about "A Case of Appendiceal Mucocele due to Low-grade Appendiceal Mucinous Neoplasm Correctly Differentiated from Acute Appendicitis Based on Diffusion-weighted Imaging and the Apparent Diffusion Coefficient Value (JMRM 2020; 40: 14-19)"	Magnetic Resonance in Medical Sciences. 2020 Aug 3; 19(3): 167	Letter
114	Shigetaka Sato, Akitoshi Inoue, Shinichi Ota, et al.	放射線科	Foreign-body granulomas and abscesses caused by dropped gallstones after cholecystectomy: Four cases diagnosed with multimodality imaging	Radiology Case Reports. 2020 Jul 3; 15(9): 1480-1484	Case Report
115	Akitoshi Inoue, Masatsugu Ohuchi, Shuhei Inoue 3人	放射線科	Asystole During CT-Guided Biopsy of a Mediastinal Tumor due to Vasovagal Reflex	Cardiovasc Intervent Radiol. 2020 Oct; 43(10): 1581-1582	Letter
116	Yoshiyuki Watanabe, Takahiro Tanaka, Atsushi Nishida, et al.	放射線科	Improvement of the diagnostic accuracy for intracranial haemorrhage using deep learning-based computer-assisted detection	Neuroradiology. 2020 Oct 6; 63(5): 713-720	Original Article
117	Shigetaka Sato, Yukihiro Nagatani, Masayuki Hashimoto, et al.	放射線科	Usability of the lateral decubitus position on four-dimensional ultra-low-dose computed tomography for the detection of localized pleural adhesion in the pulmonary apical region	Acta Radiologica. 2020 Jul; 62(4): 462-473	Original Article
118	Kai Takaki, Norihisa Nitta, Shinichi Ota, et al.	放射線科	Fat tissue as an embolic material changes the embolization time in a size-dependent	Japanese Journal of Radiology. 2021 Jan 29; 39(5): 503-510	Original Article
119	Shoko Murakami, Hiroyuki Tanaka, Takahisa Nakayama, et al	歯科口腔外科	Similarities and differences in metabolites of tongue cancer cells among two- and three-dimensional cultures and xenografts	Cancer Science. 2021 Feb; 112(2): 918-931	Original Article

計8件

120	Shoko Murakami, Ken-Ichi Mukaisho, Takuya Iwasa, et al.	歯科口腔外科	Application of "Tissueoid Cell Culture System" Using a Silicate Fiber Scaffold for Cancer Research	Pathobiology. 2020 Sep 23; 87(5): 291-301	Original Article
121	Masashi Yamori, Mitsumasa Tamura, Masaki Mikami	歯科口腔外科	Differences in the Knowledge and Experience of Physicians and Dentists About Medication-Related Osteonecrosis of the Jaw in Osteoporotic Patients	International Dental Journal. 2021 Jan 29; 71(4): 336-342	Original Article
122	Masashi Yamori, Manabu Kurosawa 2人	歯科口腔外科	A case of oral metastasis of rectal adenocarcinoma with KRAS mutation in patient with synchronous lung adenocarcinoma	Oral Science International. 2020 Apr 24; 17(3): 205-208	Original Article
123	Masaharu Noi, Ken-Ichi Mukaisho, Shoko Murakami, et al.	歯科口腔外科	Expressions of ezrin, ERK, STAT3, and AKT in tongue cancer and association with tumor characteristics and patient survival	Clinical and Experimental Dental Research. 2020 Aug; 6(4): 420-427	Original Article
124	Yu Hirobe, Shinya Koshinuma, Mami Nakamura, et al.	歯科口腔外科	Factors influencing the long-term hospitalization of bicyclists and motorcyclists with oral and maxillofacial injuries	Dental Traumatology. 2021 Apr; 37(2): 234-239	Original Article
125	Kohji Iwai, Yasuhiko Hatanaka, Tamiro Kawaguchi, et al.	リハビリテーション部	Comparison of clinical outcomes following early rehabilitation in 3 cases of nephrotic syndrome with different treatment courses	CEN Case Reports. 2020 Nov; 9(4): 365-369	Case Report
126	Yutaka Fukushima, Akiko Kojima, Xinya Mi, et al.	手術部	Open-channel blocking action of volatile anaesthetics desflurane and sevoflurane on human voltage-gated Kv1.5 channel	British Journal of Pharmacology. 2020 Aug; 177(16): 3811-3827	Original Article
127	Satoshi Noda, Daiki Hira, Rie Osaki, et al.	薬剤部	Sorafenib exposure and its correlation with response and safety in advanced hepatocellular carcinoma: results from an observational retrospective study	Cancer Chemotherapy and Pharmacology. 2020 Jul; 86(1): 129-139	Original Article

計8件

128	Tokuji Tsuji, Shin-Ya Morita, Yoshinobu Nakamura, et al.	薬剤部	Iterations in cellular and organellar phospholipid compositions of HepG2 cells during cell growth	Scientific Reports. 2021 Feb; 11(1): 2731	Original Article
129	Kanji Mori, Takafumi Yayama, Kazuya Nishizawa, et al.	整形外科	Incidence of Cranial Adjacent Segment Disease after Posterior Lumbar Interbody Fusion Using the Cortical Bone Trajectory Technique for the Treatment of Single- Level Degenerative Lumbar Spondylolisthesis; More than a 2-Year Follow-Up	Spine Surgery and Related Research. 2020 Aug 31; 5(2): 98-103	Original Article
130	Shinji Imai	整形外科	A New Guide for the Arthroscopically Assisted Latarjet Procedure.	JBJS Open Access. 2021 Feb 12 (オンライン)	Original Article
131	Shinji Imai	整形外科	Restoration of External Rotation Following a Lateral Approach for Glenoid Bony Increased- Offset Reverse Shoulder Arthroplasty	JBJS Open Access. 2021 Feb 24 (オンライン)	Original Article
132	Shigeki Bamba, Ryosuke Sakemi, Toshimitsu Fujii, et al.	栄養治療部	A nationwide, multi- center, retrospective study of symptomatic small bowel stricture in patients with Crohn's disease	Journal of Gastroenterology. 2020 Jun; 55(6): 615-626	Original Article
133	Shigeki Bamba, Osamu Inatomi, Kenichiro Takahashi, et al.	栄養治療部	Assessment of Body Composition From CT Images at the Level of the Third Lumbar Vertebra in Inflammatory Bowel Disease	Inflammatory Bowel Diseases. 2020 Nov 25 (オンライン)	Original Article
134	Ayaka Shinsyu, Shigeki Bamba, Mika Kurihara, et al.	栄養治療部	Inflammatory cytokines, appetite-regulating hormones, and energy metabolism in patients with gastrointestinal cancer	Oncology Letters. 2020 Aug; 20(2): 1469-1479	Original Article
135	Shoko Yasuhara, Mika Maekawa, Shigeki Bamba, et al.	栄養治療部	Energy Metabolism and Nutritional Status in Hospitalized Patients with Chronic Heart Failure	Annals of Nutrition and Metabolism. 2020 Apr; 76(2): 129-139	Original Article

136	Takayuki Kato, Kazunori Fujino, Yasuyuki Tsujita, et al.	救急・集中治療部	Impact of abdominal aortic calcification on 90-day mortality in sepsis patients: a pilot retrospective cohort study	Acute Medicine & Surgery. 2021 Jan 25 (オンライン)	Original Article
137	Hidemitsu Miyatake Takahisa Tabata, Yasuyuki Tsujita, et al.	救急・集中治療部	Detection of Pulmonary Embolism Using a Novel Dynamic Flat-Panel Detector System in Monkeys	Circulation Journal. 2021 Mar 25; 85(4): 361-368	Original Article
138	Hidemitsu Miyatake, Kohei Asada, Takahisa Tabata, et al.	救急・集中治療部	Novel Pulmonary Circulation Imaging Using Dynamic Chest Radiography for Acute Pulmonary Embolism	Circulation Journal. 2021 Mar 25; 85(4): 400	Original Article
139	Naoto Mizumura, Takuma Kishimoto, Tomoki Tanaka, et al.	救急・集中治療部	Vasovagal Reaction and Ischemic Colitis Following Blood Donation.	Internal Medicine (Tokyo, Japan). 2020 Jun 15; 59(12): 1515-1517	Case Report
140	Naoto Mizumura, Takuma Kishimoto, Tomoki Tanaka, et al.	救急・集中治療部	Reply to "Detailed Pathophysiology of Ischemic Colitis Following Plasma Donation".	Internal Medicine (Tokyo, Japan). 2020 Oct 1; 59(19): 2451	Others
141	Junji Shimizu, Kazunori Fujino, Toshihiro Sawai, et al.	救急・集中治療部	Association between plasma complement factor H concentration and clinical outcomes in patients with sepsis	Acute Medicine & Surgery. 2021 Jan (オンライン)	Original Article
142	Akiko Kojima, Yutaka Fukushima, Hideki Itoh,et al.	救急・集中治療部	A computational analysis of the effect of sevoflurane in a human ventricular cell model of long QT syndrome: Importance of repolarization reserve in the QT-prolonging effect of sevoflurane	European Journal of Pharmacology. 2020 Sep 15; 883: 173378	Original Article
143	Hideki Tsunoda, Hidetomo Nomi, Kunihiro Okada, et al.	総合診療部	Clinical course of Capnocytophaga canimorsus bacteremia from acute onset to life crisis	Clinical Case Reports. 2020 Nov 11; 9(1): 266-268	Case Report

計8件

144	Hayashi K, Nakayama M, Iwatani C, et al.	母子診療科	The Natural History of Spontaneously Occurred Endometriosis in Cynomolgus Monkeys by Monthly Follow-Up Laparoscopy for Two Years	The Tohoku Journal of Experimental Medicine. 2020 Aug;251(4):241-253.	Original Article
145	Kitazawa J, Kimura F, Nakamura A, et al.	母子診療科	Alteration in endometrial helper T-cell subgroups in chronic endometritis.	American Journal of Reproductive Immunology. 2021 Mar;85(3)(オンライン)	Original Article
146	Morimune A,Kimura F, Nakamura A, et al.	母子診療科	The effects of chronic endometritis on the pregnancy outcomes.	American Journal of Reproductive Immunology. 2021 Mar;85(3)(オンライン)	Original Article
147	Tsuji S,Elena Di Martino, Mukai T, er al.	母子診療科	Aggravated brain injury after neonatal hypoxic ischemia in microglia- depleted mice.	Journal of Neuroinflammation, 2020 Apr 11;17(1):111	Original Article
148	Tsuji S, Takahashi A, Higuchi A,et al.	母子診療科	Pregnancy outcomes after hysteroscopic surgery in women with cesarean scar syndrome.	PloS one. 2020 Dec 3;15(12)(オンライン)	Original Article
149	Tsuji S, Fujii K, Ando M, et al.	母子診療科	Impact of a Psychiatric Nurse Specialist as a Liaison for Pregnant Women with Mental Disorders	The Tohoku Journal of Experimental Medicine. 2021 Feb;253(2):95-99	Original Article
150	Hirata K, Goto S, Izumi Y, et al.	母子診療科	Chromosome analysis of blastocysts derived from single pronuclear zygotes by array CGH and clinical outcomes by the transfer of single pronuclear zygotes	Journal of Assisted Reproduction and Genetics. 2020 Jul;37(7):1645-1652	Original Article
151	Hirata K,Kimura F, Nakamura A, et al.	母子診療科	Histological diagnostic criterion for chronic endometritis based on the clinical outcome	BMC women's health. 2021 Mar 4;21(1):94	Original Article

計8件

152	Katsura D,Tsuji S,Hayashi K, et al.	母子診療科	Predictive factors of labour onset using ultrasonography.	Journal of Obstetrics and Gynaecology. 2020 Oct 16 (オンライン)	Original Article
153	Katsura D, Takahashi Y, Iwagaki S, et al.	母子診療科	Comparison of bilateral and unilateral umbilical artery diastolic blood flow abnormalities in monochorionic diamniotic twin pregnancies	The journal of maternal-fetal & neonatal medicine. 2020 Sep; 33(17):2933-2940	Original Article
154	Katsura D, Tsuji S, Kimura F, et al.	母子診療科	Gestational psittacosis: A case report and literature review.	The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research. 2020 May; 46(5): 673-677	Case Repoat
155	Katsura D, Moritani S, Tsuji S,et al.	母子診療科	Uncontrollable uterine atony after replacement of uterine inversion managed by hysterectomy: a case report	Journal of Medical Case Reports. 2020 Oct 8;14(1):181	Case Repoat
156	Amano T, Murakami A, Murakami T,et al.	女性診療科	Antioxidants and Therapeutic Targets in Ovarian Clear Cell Carcinoma.	Antioxidants (Basel, Switzerland). 2021 Jan 28;10(2):187	Original Article
157	Kaku S, Kubo T, Kimura F, et al.	女性診療科	Relationship of chronic endometritis with chronic deciduitis in cases of miscarriage	BMC Women's Health. 2020 Jun 1;20(1):114	Original Article
158	Kasahara K, Ono T, Higuchi A, et al.	女性診療科	Smoking during Pregnancy Is a Predictor of Poor Perinatal Outcomes in Maternal Anorexia Nervosa: A Case Series and Single-Center Cross-Sectional Study in Japan	The Tohoku Journal of Experimental Medicine. 2020 Apr;250(4):191-200	Case Repoat
159	Takahashi A, Yamanaka A, Takebayashi A, et al.	女性診療科	The expression of hepatoma upregulated protein in human endometrium during the menstrual cycle	Gynecological endocrinology. 2021 Feb;37(2):171-176	Original Article

計8件

160	Takahashi A, Nishimura H, Amano T, et al.	女性診療科	An abdominal-sacral approach with preoperative embolisation for vulvar solitary fibrous tumour: a case report	World Journal of Surgical Oncology. 2021 Mar 29;19(1):92	Case Repoat	計1件
-----	---	-------	---	--	-------------	-----

総計160件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	中川 義久	循環器内科	【冠動脈疾患と抗血栓療法】ACS患者に対する抗血栓療法	循環器内科. 2020.12; 88巻6号: 617-623	Review
2	安藤 朗	消化器内科	【腸内細菌と疾患】糞便移植の現況	日本医師会雑誌. 2020.12; 149巻9号: 1542	Review
3	安藤 朗	消化器内科	【炎症性腸疾患-診療と研究の最新情報】腸内細菌と粘膜免疫から見た炎症性腸疾患の病態	医学のあゆみ. 2021.03; 276巻11号: 1037-1041	Review
4	安藤 朗, 他	消化器内科	【消化管症候群(第3版)-その他の消化管疾患を含めて-】空腸、回腸、盲腸、結腸、直腸(下) 機能障害、運動異常 急性下痢症(成人)	日本臨床. 2020.05; 別冊消化管症候群IV: 400-405	Review
5	大野 将司, 他	消化器内科	癌と炎症を学ぶ 腸内細菌叢と炎症	消化器外科. 2020.09; 43巻10号: 1481-1485	Review
6	河原 真大, 他	血液内科	スーパーエンハンサーの異常制御による赤白血病発症機構	血液内科. 2020.11; 81巻5号: 701-706	Review
7	雑賀 渉, 他	血液内科	急性骨髄性白血病、骨髄肉腫、および芽球性形質細胞様樹状細胞腫瘍におけるBCL-2発現の免疫組織化学的検討	臨床血液. 2020.12; 61巻12号: 1647-1653	Original Article

計7件

8	卯木 智, 他	糖尿病内分泌内科	【糖尿病と肥満度～全ての糖尿病患者がBMI22を目指すべきなのか～】日本人糖尿病患者における肥満合併の現状と問題点	糖尿病. 2020.07; 63巻7号: 422-426	Review
9	卯木 智, 他	糖尿病内分泌内科	糖尿病合併症の先進医療 2019 合併症に対する包括的治療としての肥満外科治療	糖尿病合併症. 2020.06; 34巻1号: 19-22	Review
10	卯木 智, 他	糖尿病内分泌内科	【血糖コントロールの改善・安定化のコツとポイントにつながる(19)症例 とことんわかる 血糖値】(第3章)症例でわかる血糖値シックデ이의対応	糖尿病ケア. 2020.09; 2020秋季増刊: 166-172	Review
11	藤田 征弘	糖尿病内分泌内科	【糖尿病エキスパートブック 食事療法・栄養指導に活かす最新情報】糖尿病と腎臓病トピックス 糖尿病(性)腎症の治療	臨床栄養. 2020.05; 136巻6号: 867-873	Review
12	久米 真司	腎臓内科	【ケトン体による生体制御】ケトン体による腎機能制御	医学のあゆみ. 2021.03; 276巻12号: 1119-1122	Review
13	久米 真司, 他	腎臓内科	【糖尿病診療の最前線】糖尿病の合併症腎臓病	臨床と研究. 2021.01; 98巻1号: 21-26	Review
14	久米 真司, 他	腎臓内科	【糖尿病治療・研究の最前線2021】基礎研究 SGLT2阻害薬の登場により見えてきたケトン体の功罪	医学のあゆみ. 2021.01; 276巻5号: 439-442	Review
15	久米 真司	腎臓内科	【糖尿病性腎臓病(DKD)Basic & Clinical up-to-date 2020～進化するDKD治療～】糖尿病性腎臓病Basic 2020～Bridging to Clinical Research～ オートファジーからDKDを制御する	Pharma Medica. 2020.09; 38巻9号: 19-23	Review

計8件

16	武田 尚子, 他	腎臓内科	維持透析中の多発性 嚢胞腎患者における 疾患および合併症に 関する意識調査 び わこ臨床透析カンファ レンス共同研究	日本透析医学会雑誌. 2020.07; 53巻7号: 401- 409	Original Article
17	久米 真司	腎臓内科	【加齢と腎臓】加齢と DKD	腎臓内科. 2020.08; 12巻2 号: 186-192	Review
18	荒木 信一	腎臓内科	糖尿病透析予防指導 の在り方と課題 糖尿 病性腎症における食 事療法の意義と課題	糖尿病合併症. 2020.07; 34巻2号: 303-305	Review
19	荒木 信一	腎臓内科	【糖尿病性腎臓病-そ の疾患概念と克服へ の挑戦-】糖尿病性腎 臓病の最近のトレンド と今後の課題	糖尿病プラクティス. 2020.05; 37巻3号: 281- 285	Review
20	富田 一聖, 他	腎臓内科	【腎臓の代謝機能】腎 臓におけるケトン体代 謝 腎臓ケトン体産生 の役割からケトン体と 腎臓病の関わりにつ いて	腎臓内科. 2021.02; 13巻2 号: 176-182	Review
21	山原 真子	医師臨床教育センター	糖尿病性腎症におけ る糸球体上皮細胞 FERMT2の役割	上原記念生命科学財団研 究報告集. 2020.12; 34巻 44号: 201	Original Article
22	漆谷 真	脳神経内科	神経難病におけるトラ ンスレーショナル・リ サーチ 筋萎縮性側 索硬化症(ALS)病原 蛋白質の局在に基づ く抗体医療戦略	神経治療学. 2020.05; 37 巻3号: 398-400	Review
23	真田 充, 他	脳神経内科	【神経疾患と慢性炎 症】筋萎縮性側索硬 化症(ALS)と慢性炎症	別冊Bio Clinica: 慢性炎症 と疾患. 2020.12; 9巻2号: 86-90	Review
24	小川 暢弘, 他	脳神経内科	【急性期脳梗塞診断 と治療法の進歩- Time is brainから Imaging is brainへ-】 急性期脳梗塞の治療 の進歩	画像診断. 2020.11; 40巻 14号: 1405-1416	Review

計9件

25	真田 充	脳神経内科	【糖尿病性神経障害の病態解明と治療戦略】有痛性糖尿病性神経障害の病態と対策	月刊糖尿病. 2020.04; 12巻4号: 50-55	Review
26	漆谷 真	脳神経内科	【神経難病の治療開発update】総論 神経難病治療のニューホライズン	BIO Clinica. 2020.08; 35巻8号: 700-701	Review
27	塚本 剛士	脳神経内科	急性外傷性脳損傷後に時定数2秒の頭皮上脳波で皮質拡散興奮 (Cortical spreading depolarizations; CSD) が記録された一例	臨床神経. 2020.07; 60(7): 473-478	Original Article
28	寺本 晃治, 他	臨床腫瘍学講座	腫瘍崩壊症候群が原因となって出現したオキシコドンによる呼吸抑制の1例	Palliative Care Research. 2020.09; 15巻2号: 161-166	Original Article
29	松井 克之, 他	小児科	小児1型糖尿病における療養行動の実態 インスリンポンプ療法と年齢の影響	糖尿病. 2020.05; 63巻5号: 315-323	Original Article
30	中西 健史	皮膚科	カンパニオ2020 意外と知らない 足と足病変のママ知識 いまからできる、足病変予防のためによいこと!	糖尿病ケア. 2020.12; 17巻12号: 1196	Review
31	中西 健史	皮膚科	カンパニオ2020 意外と知らない足と足病変のママ知識 糖尿病患者の足病変にはご用心!	糖尿病ケア. 2020.08; 17巻8号: 802	Review
32	中西 健史	皮膚科	カンパニオ2020 意外と知らない 足と足病変のママ知識 下肢切断後の生命予後	糖尿病ケア. 2020.06; 17巻6号: 594	Review
33	中西 健史	皮膚科	カンパニオ2020 意外と知らない足と足病変のママ知識 糖尿病性腎症などの細小血管障害があると、PAD患者の下肢切断リスクが23倍になる!	糖尿病ケア. 2020.04; 17巻4号: 394	Review

計9件

34	森 治樹, 他	消化器外科	胆嚢全摘後の胆汁瘻予防にomentum plugging technique(OPT)を施行した胆嚢炎の1例	手術. 2020.06; 74巻7号: 1065-1068	Original Article
35	前川 毅, 他	消化器外科	同時に乳癌胃転移と原発性肺癌を認めた二重複癌の1例	癌と化学療法. 2020.12; 47巻13号: 2024-2026	Original Article
36	竹林 克士, 他	消化器外科	胸部食道がん周術期におけるCaHMB・L-アルギニン・L-グルタミン(アバンド)の有用性	学会誌JSPEN. 2021.02; 3巻1号: 36-42	Original Article
37	山口 剛	消化器外科	【肥満-外科治療と基礎研究の最新情報】肥満に対する外科治療のエビデンスと適応	医学のあゆみ. 2020.09; 274巻10号: 929-933	Review
38	児玉 泰一, 他	消化器外科	【「覚えなおし」と「レベルアップ」でらくらくスタート!ケアに絶対出てくる 消化器解剖&病態生理のちしき】膵臓の解剖&病態生理	消化器ナーシング. 2020.04; 25巻4号: 330-339	Review
39	仁科 勇佑, 他	消化器外科	小腸calcifying fibrous tumorに対し腹腔鏡下小腸切除術を行った1例	日本消化器外科学会雑誌. 2020.11; 53巻11号: 901-907	Original Article
40	仁科 勇佑, 他	消化器外科	腸重積の原因となった回盲弁 lipohyperplasiaの1例	日本臨床外科学会雑誌. 2020.09; 81巻9号: 1815-1820	Original Article
41	荒川 篤宏, 他	形成外科	【ペット咬創への初期治療と機能・整容の改善[1]-統計・総論、その他-】動物咬傷の初期治療と感染予防	形成外科. 2021.02; 64巻2号: 138-142	Review
42	南舘 直志	心臓血管外科	重症下腿潰瘍および大動脈弁閉鎖不全症を合併した巨大慢性解離性上行大動脈瘤の1例(原著論文/症例報告)	胸部外科 (0021-5252). 2020.08; 73巻8号: 599-601	Case Report

計9件

43	山田 茂樹	脳神経外科	【脳神経画像Critical Findings-おさえておきたい症状とCT/MRI画像所見】おさえておきたいCT/MRI所見からの鑑別 水頭症	Neurological Surgery. 2021.03; 49巻2号: 317-327	Review
44	山田 茂樹	脳神経外科	特発性正常圧水頭症のトピックス 超高齢社会への適応に向けたガイドライン改訂の要点	Neurological Surgery. 2020.09; 48巻9号: 773-780	Review
45	丸尾 知里, 他	脳神経外科	前頭蓋底進展したsinonasal teratocarcinomaの1例	脳神経外科速報. 2020.05; 30巻5号: 534-540	Original Article
46	清水 猛史	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	【今日のマクロライド療法】ガイドラインからみたマクロライド療法耳鼻咽喉科から	呼吸器内科. 2020.07; 38巻1号: 13-18	Review
47	戸嶋 一郎, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	頭蓋内進展した鼻副鼻腔未分化癌に対するシスプラチン・エトポシドを用いた導入化学療法と根治的化学放射線療法の経験	頭頸部外科. 2021.02; 30巻3号: 359-366	Original Article
48	戸嶋 一郎	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	【患者満足度up!耳鼻咽喉科の適切なインフォームド・コンセント】好酸球性副鼻腔炎の治療におけるインフォームド・コンセント	ENTONI. 2021.03; 255号: 17-24	Review
49	村尾 拓哉, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	中耳腺腫例	耳鼻咽喉科臨床. 2021.02; 114巻2号: 113-118	Original Article
50	清水 志乃, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	上半規管裂隙症候群例	Equilibrium Research. 2020.12; 79巻6号: 524-534	Original Article
51	川北 憲人, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	自然消退を認めた先天性真珠腫の3例	Otology Japan. 2020.12; 30巻4号: 257-262	Original Article

計9件

52	神前 英明	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	【好酸球性副鼻腔炎 up-to-date-病態解明と最適な治療をめざして】病態 自然免疫と獲得免疫による2型炎症の関与	耳鼻咽喉科・頭頸部外科. 2021.01; 93巻1号: 44420	Review
53	山本 小百合, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	当科における頭部外傷後嗅覚障害の臨床的検討	耳鼻咽喉科ニューロサイエンス. 2020.06; 34巻: 59-62	Original Article
54	柿木 雅志	眼科	【黄斑円孔/偽円孔手術を極める!】手術適応と基本手技 強度近視性黄斑円孔網膜剥離の手術適応と手術方法	臨床眼科. 2020.12; 74巻13号: 1516-1522	Review
55	岩佐 真紀, 他	眼科	【いまだきの小児眼科の傾向と対策】色覚異常の診断に必要な検査と対応方法	あたらしい眼科. 2020.09; 37巻9号: 1055-1062	Review
56	河内 明宏, 他	泌尿器科	【小児泌尿器診療のトレンド】夜尿症と向き合う 夜尿症診療のトレンド	泌尿器科. 2021.02; 13巻2号: 179-184	Review
57	河内 明宏	泌尿器科	【過活動膀胱-進む病態解明と広がる治療選択肢】Key words 夜間頻尿	カレントセラピー. 2021.02; 39巻2号: 183	Review
58	河内 明宏	泌尿器科	【夜間頻尿と睡眠障害】夜間頻尿の病態と診断 膀胱蓄尿障害(過活動膀胱・前立腺肥大症など)	Progress in Medicine. 2020.12; 40巻12号: 1267-1272	Review
59	上仁 数義, 他	泌尿器科	【LESS手術教えます「私はこちら教えている」】小児泌尿器科領域におけるLESS手術	Japanese Journal of Endourology. 2020.12; 33巻2号: 186-193	Review
60	小林 憲市, 他	泌尿器科	【VURに対する Precision Endourologyは開放手術を超えられるか】気膀胱下逆流防止術(Cohen法)における Precise operation	Japanese Journal of Endourology. 2020.04; 33巻1号: 44419	Review

計9件

61	永澤 誠之, 他	泌尿器科	当院におけるN1前立腺癌に対する局所治療の治療効果	泌尿器外科. 2020.08; 33巻8号: 1071-1073	Original Article
62	上仁 数義, 他	泌尿器科	【夜尿症】夜尿症の治療 薬物治療 漢方薬	小児内科. 2020.11; 52巻11号: 1658-1661	Review
63	上仁 数義, 他	泌尿器科	【症例で学ぶ!腎泌尿器診療ガイドラインの使い方】(第4章)小児の腎泌尿器疾患 水腎症	腎と透析. 2020.06; 88巻増刊: 190-199	Review
64	水流 輝彦	泌尿器科	【デキル内科医のコンサルト-専門医が教える隠れたエッセンス】コンサルトを依頼する排尿障害のマネジメント依頼	Medicina. 2020.04; 57巻5号: 742-745	Review
65	水流 輝彦, 他	麻酔科	単回式吸入麻酔薬気化器(アナコンダ)	人工呼吸. 2020.05; 37巻1号: 53-59	Original Article
66	福島 豊, 他	麻酔科(手術部)	揮発性麻酔薬の作用に関わる分子メカニズム(総説)	臨床麻酔(0387-3668). 2021.01; 45巻1号: 17-24	Review
67	辻村 孝之, 他	ペインクリニック科	慢性難治性腰痛患者に対するCognitive Functional Therapy(CFT)の経験 身体機能・認知機能・生活習慣への理学療法	ペインクリニック. 2020.10; 41巻10号: 1341-1347	Original Article
68	福井 聖, 他	ペインクリニック科	【神経障害性疼痛の現況と今後の展望】神経障害性疼痛とパルス高周波療法	麻酔. 2020.09; 69巻9号: 960-969	Original Article
69	柳 勇也, 他	放射線部	全身皮膚電子線療法における爪保護のためのリアルタイム可変型タングステン含有ゴムの応用	日本放射線技術学会雑誌. 2021.02; 77巻2号: 145-152	Original Article

計9件

70	沖 摩耶, 他	放射線科	【胸部の最新画像情報2021】長期の経過を追えたシェーグレン症候群に合併したアミロイドーシスの1例	臨床放射線. 2021.01; 66巻1号: 65-70	Original Article
71	越沼 伸也	歯科口腔外科	下顎右側第二小臼歯欠損にインプラント治療を応用した1症例	日本口腔インプラント学会誌. 2020.06; 33巻2号: 193-194	Original Article
72	村上 翔子, 他	歯科口腔外科	下顎歯肉への転移を契機に発見された肺腺扁平上皮癌の1例	日本口腔外科学会雑誌. 2020.05; 66巻5号: 240-245	Original Article
73	岩井 宏治	リハビリテーション部	呼吸リハビリテーションにおける身体活動量推定と心機能評価の重要性に関する研究	日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌. 2020.12; 29巻2号: 186-190	Original Article
74	久郷 真人, 他	リハビリテーション部	【疼痛に対する最新の理学療法-治療効果を最大化するための理論と実践】慢性痛に対する集学的リハビリテーション	理学療法ジャーナル. 2020.10; 54巻10号: 1178-1185	Others
75	原田 佳典, 他	リハビリテーション部	AYA(Adolescent and Young Adult)期の脳腫瘍クライアントに対して人間作業モデルに基づく作業療法がQuality of lifeの向上をもたらした事例	作業行動研究. 2020.06; 24巻1号: 29-36	Case Report
76	福島 豊, 他	手術部	揮発性麻酔薬の作用に関わる分子メカニズム	臨床麻酔. 2021.01; 45巻1号: 17-24	Review
77	清水智治	医療安全管理部	エンドトキシン吸着療法の歴史と今後の展開	エンドトキシン・自然免疫研究. 2020.10; 23巻: 1-6	Review
78	國津 侑貴, 他	薬剤部	電子カルテシステムと連動した病名禁忌処方チェックシステムの有用性評価	医療薬学. 2020.09; 46巻9号: 489-502	Original Article

計9件

79	上田 智弘, 他	薬剤部	調剤監査システムにおける調剤間違い誤検出事例の解析	滋賀県病院薬剤師会誌. 2020.09; 43巻2号: 444-51	Original Article
80	清水 奈穂美	看護臨床教育センター	Shared decision makingの観点からみた在宅高齢者の終末期栄養療法に関わるチームの合意形成における訪問看護師の支援	学会誌JSPEN. 2020.11; 2巻5号: 307-315	Original Article
81	藤川 ひとみ, 他	整形外科	術前に活動性が高い患者はTKA術後の患者立脚型評価の改善が悪い	JOSKAS. 2020.04; 45巻2号: 434-435	Original Article
82	上林 嘉孝, 他	整形外科	術中Navigation System使用 JOURNEY II BCS症例の術後1年次成績	JOSKAS. 2020.04; 45巻2号: 418-419	Original Article
83	前田 勉, 他	整形外科	内反アライメントTKAは膝外側靭帯弛緩性のリスク因子とならない 術後1年目の結果	中部日本整形外科災害外科学会雑誌. 2020.07; 63巻4号: 577-578	Original Article
84	久保 充彦, 他	整形外科	下肢coronal alignmentを考慮したTKA術後伸展位靭帯バランスの臨床成績に与える影響	中部日本整形外科災害外科学会雑誌. 2020.07; 63巻4号: 575-576	Original Article
85	久保 充彦, 他	整形外科	人工膝関節全置換術における伸展位靭帯バランスの臨床成績への影響	JOSKAS. 2020.04; 45巻2号: 450-451	Original Article
86	天野 泰孝, 他	整形外科	ATTUNE fixed bearing PSとJOURNEY II BCSにおける大腿骨-脛骨間回旋アライメントは脛骨コンポーネント回旋設置に影響される	JOSKAS. 2020.04; 45巻2号: 438-439	Original Article
87	久保 充彦, 他	整形外科	TKA術後のkinematicsが臨床成績に与える影響 TKAで目標とすべきkinematicsの検討	日本人工関節学会誌. 2020.12; 50: 895-896	Original Article

計9件

88	上中一泰、他	整形外科	人工膝関節置換術後患者のスポーツ活動についての検討	日本人工関節学会誌. 2020.12; 50: 893-894	Original Article
89	前田勉、他	整形外科	術中image-free navigationを用いたROM法の脛骨コンポーネント設置回旋角の検討	日本人工関節学会誌. 2020.12; 50: 887-888	Original Article
90	江口 豊, 他	救急集中治療医学講座	【PMX-DHPを再考する】PMX-DHPの適応、開始基準を再考する	ICUとCCU. 2020.09; 44巻9号: 549-553	Review
91	大橋 瑞紀, 他	母子診療科	Late preterm PROMの待機的管理における母児の予後についての検討	産婦人科の進歩. 2020.10;72巻4号:399-400	Original Article
92	中村 暁子, 他	女性診療科	腹腔鏡下に摘出し得た後腹膜ミュー管嚢胞の1例	滋賀県産科婦人科雑誌.2020.08;12巻:13-16	Original Article
93	高橋 健太郎, 他	産婦人科	滋賀県民が望む分娩について アンケート調査結果から	滋賀医学. 2021.03;43巻:8-15	Original Article
94	村頭 温, 他	女性診療科	CTが診断契機となったデイスジャーミノーマIA期の再発症例	滋賀県産科婦人科雑誌. 2020.08;12巻:17-20	Original Article

計7件

総計94件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	☒ 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	☒ 有・無
・ 手順書の主な内容 「倫理審査委員会規程」 「遺伝子解析研究取扱規程」 「滋賀医科大学 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する手順書」 「国立大学法人滋賀医科大学認定臨床研究審査委員会規程」 「特定臨床研究における疾病等の発生および不具合に関する対応・報告のための標準業務手順書」 「臨床研究に関する研究責任医師並びに分担医師の責務」 「臨床研究法に基づく臨床研究に関する標準業務手順書」 「臨床研究に関する個人情報の取扱いに関する標準業務手順書」 「多施設共同研究における研究代表医師が委託する臨床研究審査委員会での審査に関する標準業務手順書」 「国立大学法人滋賀医科大学特定認定再生医療等委員会規程」	
③ 倫理審査委員会の開催状況 2020年4月9日、5月14日、6月11日、7月9日、9月10日、10月8日、 11月12日、12月10日、2021年1月14日、2月18日、3月11日	年 1 1 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	☒ 有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	☒ 有・無
・ 規定の主な内容 滋賀医科大学利益相反マネジメント規程において、利益相反マネジメントの対象、利益相反マネジメント委員会の設置、アドバイザーの設置及び職員等の責務等を定めている。また組織的利益相反マネジメントについても委員会を設置し、役員、管理職の利益相反、組織的意思決定に関する利益相反のマネジメントも行っている。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 1 回 (組織的利益相反) 随時開催 (全件審査) (医学研究に係る利益相反)

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 7 回
・ 研修の主な内容 ・ 「2020年倫理指針ゲノム指針講習会」 (SUMS e-learning) ・ ICR-web 「臨床研究入門」「臨床研究の基礎知識講座」 (e-learning) ・ APRIN 「01_責任ある研究行為：基盤編」 (e-learning) ・ 令和2年度臨床研究・治験従事者等に関する研修 (Web) ・ 倫理審査委員会委員教育 (Web) ・ 臨床研究審査委員会委員教育 (Web) ・ 特定認定再生医療等委員会委員教育 (DVD) 受講者数 (延べ) 1, 054人	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

- ・ 卒後 3 年目から 7 年目の医師を対象とし、実践的で高い臨床能力を持ち、倫理性・科学性に富む専門医の育成を目標としている。
- ・ プログラムコースは各診療科により若干異なるが、卒後 3 年目を滋賀医科大学医学部附属病院で研修した後、市中関連病院に 1～2 年間出向の後、滋賀医科大学医学部附属病院に戻る、あるいは更に別の関連病院に 1～2 年間勤務した後戻るといったコース編成となっている。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	82 人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
中川 義久	循環器内科	教授、診療科長	35 年	
中野 恭幸	呼吸器内科	教授、診療科長	23 年	アレルギー科を含む
安藤 朗	消化器内科	教授、診療科長	30 年	
木藤 克之	血液内科	病院教授、診療科長	26 年	感染症内科を含む
前川 聡	糖尿病内分泌内科	教授、診療科長	34 年	代謝内科を含む
久米 真司	腎臓内科	助教、診療科長	22 年	
漆谷 真	脳神経内科	教授、診療科長	26 年	
丸尾 良浩	小児科	教授、診療科長	30 年	アレルギー科を含む
尾関 祐二	精神科	教授、診療科長	17 年	
藤本 徳毅	皮膚科	教授、診療科長	17 年	
谷 眞至	消化器外科	教授、診療科長	32 年	
山口 剛	乳腺・小児・一般外科	講師、診療科長	24 年	
鈴木 友彰	心臓血管外科	教授、診療科長	20 年	
花岡 淳	呼吸器外科	病院教授、診療科長	25 年	
今井 晋二	整形外科	教授、診療科長	27 年	リウマチ科を含む
野崎 和彦	脳神経外科	教授、診療科長	31 年	
清水 猛史	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	教授、診療科長	34 年	アレルギー科を含む
村上 節	産婦人科	教授、診療科長	32 年	
河内 明宏	泌尿器科	教授、診療科長	32 年	
大路 正人	眼科	教授、診療科長	34 年	
北川 裕利	麻酔科	教授、診療科長	29 年	
渡邊 嘉之	放射線科	教授、診療科長	24 年	
田畑 貴久	救急科	講師、診療科長	23 年	
山本 学	歯科口腔外科	教授、診療科長	33 年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
【看護師】 ・研修の主な内容 薬剤（麻薬・抗がん剤・インスリン・血液製剤等）、輸液管理、12誘導心電図・心電図モニター管理、人工呼吸器管理、急変時対応等について ・研修の期間・実施回数 2020年度・53回 ・研修の参加人数 71名 【薬剤師】 ・研修の主な内容 薬剤師レジデントを対象に、がん薬物療法についての高度な知識・技術を習得することを目的に研修を実施した。 ・研修の期間・実施回数 2020年4月1日～2021年3月26日・1名あたり21回 ・研修の参加人数 2名
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
【管理栄養士】 ・研修の主な内容 ①衛生管理 ②栄養評価、栄養投与の決定、栄養療法の選択、経腸栄養、静脈栄養、病態栄養 ・研修の期間・実施回数 ①2020/12/16～2021/1/15（直接講習及びオンデマンド講習） ②2020/4/2、4/16、4/23、4/30、5/7、7/9、7/30、8/6、8/13、9/3、9/24、10/1、10/22、10/29、11/12、11/26、12/10、12/24、2021/1/7、1/21、2/4、2/18 ・研修の参加人数 ①57名 ②13～15名 【薬剤師】 ・研修の主な内容 薬剤師を対象にインシデントレポートの記載、疑義照会の分析、プレアボイド報告事例、漢方薬、ドーピング薬についての説明を行った（すべてweb開催）。 ・研修の期間・実施回数 2020年6月8日～2021年3月22日・6回 ・研修の参加人数 延べ177名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	病院長 田中 俊宏	
管理担当者氏名	事務部長 (病院担当) 鎌澤 幸彦	

		保 管 場 所		管 理 方 法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	クオリティマネジメント課	平成22年7月より電子カルテ化されており、入外共に永久保存されている。 それ以前の紙の診療録等については、外来・入院別に1患者1ファイル方式によって永久一元番号で分類していた。 紙の診療録については、最終受診日が平成20年12月31日までの入院・外来診療録は10年間の現物保管、10年を経過したものは光ファイリングののち廃棄、但し、入院歴のない外来診療録は10年間の現物保管後、そのまま廃棄としていた。最終受診日が平成21年1月1日以降の入院・外来診療録は10年間の現物保管、10年を経過したものは光ファイリングののち廃棄する。 画像情報は平成20年以降の画像データを全て電子データとしてPACSにて保管している。 マンモグラフィ画像は昨年度までの10年間程度の画像はフィルムにて保管している。
		各科診療日誌	各診療科	
		処方せん	薬剤部	
		手術記録	医務課	
		看護記録	医務課	
		検査所見記録	医務課	
		エックス線写真	放射線部	
		紹介状	医務課	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医務課	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	人事課	病院情報システムのそれぞれの部門システムにて管理されている。
		高度の医療の提供の実績	クオリティマネジメント課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	クオリティマネジメント課	
		高度の医療の研修の実績	クオリティマネジメント課	
		閲覧実績	総務企画課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医療サービス課	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医務課及び薬剤部	

	規則 第一条の十一 第一 項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	法人文書管理規則及び法人文書ファイル保存要領により管理している。
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部	

			保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部	法人文書管理規則及び法人文書ファイル保存要領により管理している。
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部	

		保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	病歴部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	病歴部
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	手術部、放射線部、光学医療診療部
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	薬剤部
		監査委員会の設置状況	医療安全管理部
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療サービス課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	クオリティマネジメント課
		職員研修の実施状況	医療安全管理部
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部
		管理者が有する権限に関する状況	クオリティマネジメント課
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	監査室
		開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務企画課

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状	
閲覧責任者氏名	滋賀医科大学長 上本 伸二		
閲覧担当者氏名	総務企画課文書法規係長 叶 富士一		
閲覧の求めに応じる場所	管理棟2階 総務企画課内 情報公開室		
閲覧の手続の概要			
開示請求者から「法人文書開示請求書」を受領後、「情報公開・個人情報保護審査委員会」の審議を経て、学長が開示・不開示の決定をする。			

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0 件
閲覧者別	医 師	延	0 件
	歯 科 医 師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無														
・ 指針の主な内容： 1) 医療安全管理に関する基本的な考え方 2) 医療安全管理のための委員会その他組織に関する基本的事項 3) 医療安全管理のための職員研修に関する基本方針 4) 報告等にもとづく医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 5) 医療事故等重大なインシデント発生時の対応に関する基本方針 6) 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針 7) 患者からの相談への対応に関する基本指針 8) その他医療安全の推進のために必要な基本方針															
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況															
・ 設置の有無（ 有・無 ） ・ 開催状況：年12回 ・ 活動の主な内容： (1) 医療安全管理の企画立案に関すること。 (2) インシデント等の状況の分析に関すること。 (3) 全死亡例に関すること。 (4) 高難度新規医療技術、未承認新規医薬品等を用いた医療の適否結果及び従事者の遵守状況に関すること。 (5) 本院で実施する臨床研究（以下「臨床研究」という。）の把握並びに当該臨床研究において発生した重篤な有害事象及び不適合への対応に関すること。 (6) 医療安全の確保に資する、診療状況の把握に関すること。 (7) 医療安全管理に係る教育及び研修に関すること。 (8) 医療安全管理指針の策定及び変更に関すること。 (9) 医薬品安全使用のための業務手順書の作成又は変更に関すること。 (10) 医療機器安全使用に関すること。 (11) 医療放射線安全使用に関すること。 (12) 院内で行われる、実習、研修など教育活動に伴う患者安全管理に関すること。 (13) 医療安全マニュアルに関すること。 (14) インシデントの公的機関への報告及び公表等に関すること。 (15) 発生したインシデントの患者及び家族等への対応に関すること。 (16) その他インシデント、医事紛争及び訴訟に関すること。															
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 7 回														
・ 研修の内容（すべて）： <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">2020年5月18日、e-learning開講</td><td>インシデント報告と患者誤認</td></tr> <tr> <td>2020年5月18日、e-learning開講</td><td>エラー対策</td></tr> <tr> <td>2020年6月29日、e-learning開講</td><td>ヨード造影剤腎症（CIN）予防ガイドライン改訂第3版について</td></tr> <tr> <td>2020年9月30日、e-learning開講</td><td>医薬品の副作用報告</td></tr> <tr> <td>2020年12月28日、e-learning開講</td><td>外来での患者取り違いによる誤注射</td></tr> <tr> <td>2020年12月28日、e-learning開講</td><td>セントラルモニタ受信患者間違い</td></tr> <tr> <td>2021年1月14日、e-learning開講</td><td>MR検査を安全に運用するために</td></tr> </table>	2020年5月18日、e-learning開講	インシデント報告と患者誤認	2020年5月18日、e-learning開講	エラー対策	2020年6月29日、e-learning開講	ヨード造影剤腎症（CIN）予防ガイドライン改訂第3版について	2020年9月30日、e-learning開講	医薬品の副作用報告	2020年12月28日、e-learning開講	外来での患者取り違いによる誤注射	2020年12月28日、e-learning開講	セントラルモニタ受信患者間違い	2021年1月14日、e-learning開講	MR検査を安全に運用するために	
2020年5月18日、e-learning開講	インシデント報告と患者誤認														
2020年5月18日、e-learning開講	エラー対策														
2020年6月29日、e-learning開講	ヨード造影剤腎症（CIN）予防ガイドライン改訂第3版について														
2020年9月30日、e-learning開講	医薬品の副作用報告														
2020年12月28日、e-learning開講	外来での患者取り違いによる誤注射														
2020年12月28日、e-learning開講	セントラルモニタ受信患者間違い														
2021年1月14日、e-learning開講	MR検査を安全に運用するために														
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況															

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 （ ☒ 有 ・ 無 ）
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - 1) ニュース・レターの発行や院内ホームページへの掲載により、職員に周知している。
 - 2) 毎月の重要なインシデント及びその対策について各部署リスクマネージャーが周知し、情報の共有化を図っている。
 - 3) 院内ラウンドによるチェックを行っている。
 - 4) リスクマネージャー会議を開催し、医療安全管理部での検討事項、具体的な改善計画等の情報を伝達している。

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
- 指針の主な内容： 1) 院内感染対策に関する基本的な考え方 2) 院内感染対策のための委員会その他の組織に関する基本的事項 3) 院内感染対策のための職員研修に関する基本方針 4) 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5) 院内感染発生時の対応の基本方針 6) 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 7) その他院内感染対策の推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
- 活動の主な内容： 1) 感染予防対策の企画立案に関すること。 2) 院内感染対策のための指針の策定及び変更に関すること。 3) 感染予防対策マニュアルに関すること。 4) 感染予防対策に係る監視及び指導に関すること。 5) 感染予防対策に係る調査に関すること。 6) 感染予防対策に係る教育及び研修に関すること。 7) その他感染予防対策に関すること。	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 6 回
- 研修の内容（すべて）： 2020年5月25日、e-learning開講 新型コロナウイルスの感染防御対策 2020年6月16日、17日 感染症の診断と治療 2020年7月21日、22日 検体採取・提出・保存 2020年9月15日、16日 グリコペプチド、アミノグリコシド 2020年10月20日、21日 当院の結核症例、 2020年10月8日、e-learning開講 針刺し・切創（血液・体液曝露）～防止策と発生時の対応～	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
- 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無) - その他の改善のための方策の主な内容： 1) ニュース・レターの発行や院内ホームページへの掲載及び学内メールにより、職員に周知している。 2) 感染制御部および感染対策チーム委員会において、感染症の発生状況と対策について検討し、各部署の感染リンクスタッフに周知し、情報の共有化を図っている。 3) 実施状況について院内ラウンドによるチェックを行っている。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 5 回
研修の主な内容： 2020.4.3 研修医を対象に、薬剤部の役割と医薬品のオーダー方法について講義を行った。（40名参加） 2020.5.19 新人看護師を対象に、医薬品安全使用に関する講義を行った。（71名参加） 2020.9.30～2021.3.31公開 院内医療従事者を対象に、医薬品の副作用報告について講義（eラーニング）を行った。（延べ579名視聴） 2020.12.1 40病棟看護師研修会で、造血幹細胞移植関連薬剤に関する講義を行った。（7名参加） 2020.12.17 40病棟看護師研修会で、抗菌薬に関する講義を行った。（7名参加）	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
- 手順書の作成（有・無） - 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： 医薬品の採用、医薬品の購入、調剤室における医薬品の管理、病棟・各部門への医薬品の供給、病棟・各部門における医薬品の管理、外来患者への医薬品の使用、入院患者への医薬品使用、麻薬の取扱い、治験薬の取扱い、特定生物由来製品の取扱い、要管理薬（向精神薬・筋弛緩薬・覚醒剤等）の取扱い、未承認・適応外・禁忌等に該当する医薬品の取扱い、院内製剤、医薬品情報の収集・管理・提供、外来化学療法部門、手術・麻酔部門、ICU、輸血・血液管理部門、画像診断部門、歯科領域、血液浄化部門、他施設との連携、重大な有害事象の予防・対応、事故発生時の対応、教育・研修、特に安全管理が必要な医薬品 2020年8月～9月に、院内各部署の担当医長・師長・薬剤師の3者で、手順書に基づく業務の実施状況の確認を行った。 2020年10月に手順書の改訂（14版）を行った。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
- 医薬品に係る情報の収集の整備（有・無） - 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： ○直腸がん術後の難治性直腸腫瘍の治療に対するエストリール錠および膣錠の使用 ○トキシプラズマ症に対するピリメタミン錠、スルファジアジン錠、ホリナート（注射または内服）の使用 ○重症のCOVID-19患者の治療のためのアビガン錠、フサン注、ナファモスタット注、アクテムラ点滴静注、カモスタットメシル酸塩錠、ストロメクトール錠の投与 ○卵巣過剰刺激症候群に対するレルミナ錠の投与 ○COVID-19患者の血栓予防のためのダルテパリンNa静注の使用 ○高度のK溶液の一般病棟での投与 ○てんかん重責状態に対するレベチラセタム、ミダゾラム、プロポフォール、チオペンタール、チアミラール、ラコサミド、ペランパネルの使用 ○肝切除後の患者の体液貯留に対するサムスカ錠とスピロラクトン錠の併用 ○肝細胞がんや肝転移、腎がん、椎体の腫瘍などのラジオ波・マイクロ波焼灼術時のミダゾラム、デクスメデトミジンの使用 ○新生児糖尿病の血糖コントロールおよびDEND症候群の神経症のけいれんの治療に対するオイグルコン錠の使用 ○消化器術後の難治性膵液漏に対するオクトレオチド皮下注の使用	

- 検査・処置・局所麻酔下の小手術の際、治療に対する不安・苦痛・疼痛・緊張・ストレスを和らげる目的でのジアゼパム、ミダゾラム、プロポフォールの使用
- 菊地病に対するプラケニル錠の使用
- せん妄患者に対する非挿管管理下での鎮静に用いるデクスメトミジン
- 循環抑制目的で鎮静を要する心不全におけるせん妄の鎮静としてデクスメトミジン、プロポフォール、ミダゾラムの使用
- 循環抑制目的での大動脈解離などの大動脈関連疾患における鎮静としてデクスメトミジン、プロポフォール、ミダゾラムの使用
- 脳血管内治療を予定しており、クロビドグレルへの反応性が低い患者、または脳血管内治療の術中に血栓症をきたした患者に対するエフィエント錠の使用
- ランバート・イートン症候群に対する3,4-ジアミノピリジンの使用
- 小児がんに対するシスプラチン投与に伴う聴覚障害の軽減を目的としたデトキシール注の使用
- 泌尿器科領域の検査・処置の鎮静を目的としたミダゾラムの使用
- 乳び漏・リンパ漏に対するオクトレオチド皮下注の使用
- 難治性高カルシウム血症の治療を目的としたランマーク皮下注の使用
- 再発・治療抵抗性の骨肉腫に対するテモゾロミド錠とラステットSカプセルの併用
- 小児患者におけるオピオイド誘発性便秘症に対するスインブロイク錠の使用
- 小児固形がんの骨転移に対するゾレドロン酸注の使用
- 小児科患者における先天性乳び胸・難治性胸水に対するピシバニール注の使用
- 切迫流産・早産に対するインテパン坐剤、ニフェジピンの使用
- 早産児の帝王切開、胎児機能不全、子宮内反症、胎盤用手剥離時における緊急子宮弛緩のためのニトログリセリン注の使用
- バセドウ病、甲状腺機能亢進症の治療に対するクエストラン粉末の使用
- 中心性漿液性脈絡網膜症に対するビスサイン注の使用

・ その他の改善のための方策の主な内容：

1) 新規の取り組み

- 2020年は薬剤部の医療安全目標を患者誤認防止として、確認手順や取り組み事項を記載した携帯型（名刺サイズ）カードを薬剤部職員に配布し、改めて周知を行った。

2) 継続的な取り組み

- 医薬品安全管理副責任者4名を任命し、院内の医薬品の使用状況の把握や安全性情報の伝達等を行っている。
- 緊急性を要する安全性情報や添付文書改訂情報は、随時、薬剤部から病院全職員にメール送信している。また、特定の診療科で使用する薬剤については、病棟薬剤師を通じ、該当医薬品を使用する医師や看護師等に直接情報を伝達し、周知を行っている。特に病院全職員に周知が必要な情報を月1回、紙ベース（クスリのリスクコミュニケーション）で回覧し、確認後、押印してもらい回収している。
- 医薬品情報に特化した院内医療従事者専用のWEBページを作成し、医薬品の採用削除、添付文書改訂、安全性情報及び回収情報等を閲覧できるようにしている。検索機能もあるため、過去情報の検索も可能である。
- 医薬品集電子版を電子カルテ全端末に配信している。医薬品添付文書情報だけでなく、添付文書改訂情報や薬剤部で作成したハイリスク薬や術前中止薬一覧等も掲載され、医師がオーダー時に参照可能である。
- 厚労省に報告した副作用情報、未承認・適応外薬及び併用禁忌薬の処方状況等は、薬事委員会に報告し、安全使用のための改善策や院内への周知広報について協議を行っている。
- 患者支援センターに薬剤師が常駐し、処方薬や市販薬・サプリメント等の使用状況を把握し、術前中止薬の有無について確認を行っている。
- 使用が承認された未承認等の医薬品の情報は、該当する病棟の担当薬剤師に連絡し、使用状況や有害作用の発生の有無を定期的に確認し、必要なら是正を指導する。また、リスク分類を行い、ハイリスクに分類されたものについては、項目を決め、モニタリングの強化を行っている。モニタリングの内容はカルテに記載している。
- 併用禁忌薬、妊婦禁忌薬、アレルギー禁忌薬、及び病態禁忌薬は、電子カルテシステム及び部門システムで処方状況を把握し、薬剤部内リスクマネジメント会議において、使用状況や不適切な使用の有無を確認し、必要なら病棟薬剤師を通じて是正を指導する。
- 疑義照会記録はデータベース化し、特に注意すべきものについて、薬剤部内で情報共有している。情報共有したもの以外のデータについても、必要時には検索・照会が可能である。
- 調剤の画像監査システムを導入し間違いを防止している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	☒ ・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
- 研修の主な内容： - 新規中途採用者研修（医師、看護師、メディカルスタッフ） - 新規中途採用者医師研修 - 新規中途採用者看護師研修 - 新規採用看護師（新卒）研修 - e-Learningによる 9 機種の使用に対する研修会を実施（PCPS、IABP、人工呼吸器、血液浄化装置、保育器、除細動器、シリンジポンプ、輸液ポンプ、ベッドサイドモニタ）	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
- 医療機器に係る計画の策定（☒・無） - 機器ごとの保守点検の主な内容： ○年1回のメーカーによる保守点検 シリンジポンプ、輸液ポンプ、人工呼吸器、麻酔器、人工心肺装置、PCPS、IABP、保育器、透析装置（CHDF等含む）、da Vinci（年2回） ○臨床工学部による月1回または3か月に1回、年1回の定期点検の実施 除細動器、人工呼吸器、麻酔器、PCPS、IABP（各月1回） 透析装置「CHDF等含む」、電気メス、（各3か月1回）	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
- 医療機器に係る情報の収集の整備（☒・無） - 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：なし - その他の改善のための方策の主な内容： - PMDAからの情報収集及びメーカーによる情報収集を行っている。 - 臨床工学部より医療機器の安全使用のためのニュースレターを定期的に出している。 - 医療機器安全管理情報のホームページを作成し、ニュースレターやお知らせ文書などを掲載している。	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	☒ 有 ・ 無
・ 責任者の資格（医師・歯科医師） ・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 医療安全管理責任者を副病院長（医療安全等担当）とし、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括している。	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	☒ 有（2名） ・ 無
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況 ・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 薬剤部医薬品情報管理室で情報の収集・整理を行っている。また、iPicを用いて情報発信するとともに、毎月「クスリのリスクコミュニケーション」を発行し、回覧することにより周知している。 ・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 適応外・禁忌医薬品・未承認医薬品等の使用について審査手順書を作成している。 平成29年4月より高難度医療・未承認医薬品等管理室が窓口となり、「未承認・未認証・未届・適応外・禁忌・禁止に該当するレジメン使用申請書」、「国内未承認・適応外・禁忌に該当する医薬品の臨床使用申請書」を受付け、医薬品安全管理責任者が委員長でもある治療担当部門の薬事委員会での正審査を行っている。 ・ 担当者の指名の有無 ☒ 有 ・ 無 ・ 担当者の所属・職種： （所属：薬剤部，職種 薬剤師） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	☒ 有 ・ 無
・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 ☒ 有 ・ 無 ・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：規程に沿った説明・同意書になっているかを医師・看護師で構成しているWGで確認し、使用している。また、ICについても内容の確認を行っている。	
⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	☒ 有 ・ 無
・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： 責任者の指示の下、多職種監査として、患者目線と医療者目線での評価基準を設け、同意書や治療に関する説明の有無と診療録の記載内容について、医師、看護師、薬剤師による監査を行っている。また、看護記録についても、医師、薬剤師による監査を行い、結果を病歴部連絡協議会で報告し、今後、記載の充実を図るべき内容について周知している。	

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	☒ 有 ・ 無
・ 所属職員：専従（５）名、専任（ ）名、兼任（１０）名 うち医師：専従（２）名、専任（ ）名、兼任（３）名 うち薬剤師：専従（１）名、専任（ ）名、兼任（ ）名 うち看護師：専従（２）名、専任（ ）名、兼任（１）名 （注）報告書を提出する年度の１０月１日現在の員数を記入すること ・ 活動の主な内容： （１） インシデント防止の推進に関すること。 （２） インシデント発生時の調査及び分析に関すること。 （３） インシデント等に関する事例、対策等の情報収集に関すること。 （４） 全死亡例に関する、集計、分析、報告等に関すること。 （５） 医療安全の確保に資する、診療状況の把握に関すること。 （６） 医療安全管理委員会への情報提供及び改善策の提案に関すること。 （７） 医療安全管理に関する教育、研修等の企画及び実施に関すること。 （８） 医療安全に関する院内巡視、記録等の点検及び評価に関すること。 （９） 医療安全マニュアルの作成に関すること。 （１０） 医療安全に関する広報・啓発活動に関すること。 （１１） リスクマネジャー会議・事例検討会等に関すること。 （１２） 本院で実施する臨床研究の把握並びに当該臨床研究において発生した重篤な有害事象及び不適合へ情報収集に関すること。 （１３） その他医療安全の推進に関すること。 ※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。 ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（６件）、及び許可件数（６件） ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 活動の主な内容： 各診療科より提出される申請内容を確認し、各評価委員会へ適否について審議依頼し適否結果の報告を受ける。高難度医療・未承認医薬品等管理室で最終確認を行い、適否結果を各診療科等に通知する。 各評価委員会は高難度新規医療技術が適正な手続きに基づいて提供又は使用されていたかどうかに関し、診療録等の記載内容を確認し、また従事者の遵守状況のモニタリングを行う。 高難度新規医療技術の提供又は使用の適否等について決定したとき及び従事者の遵守状況を確認したときに、その内容について医療安全管理委員会に報告する。 ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）	

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（70 件）、及び許可件数（68 件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（☒有・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（☒有・無）
- ・活動の主な内容：
 - 各診療科より提出される申請内容を確認し、各評価委員会へ適否について審議依頼し適否結果の報告を受ける。高難度医療・未承認医薬品等管理室で最終確認を行い、適否結果を各診療科等に通知する。
 - 各評価委員会は未承認医薬品等が適正な手続きに基づいて提供又は使用されていたかどうかに関し、診療録等の記載内容を確認し、また従事者の遵守状況のモニタリングを行う。
 - 未承認医薬品等の提供又は使用の適否等について決定したとき及び従事者の遵守状況を確認したときに、その内容について医療安全管理委員会に報告する。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（☒有・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（☒有・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 258 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 195 件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
 - 医療安全管理委員会で周術期死亡、術後在院死亡の事例について報告し、必要に応じて事例検討会、事例調査検討委員会を開催し原因、対策等について検討している。また、関係部署での M&M カンファレンスの実施指導を行っている。また、影響レベル 3b 以上の事象や合併症報告などに関しても医療安全管理委員会で報告し、原因対策等について検討している。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（☒有（病院名： 奈良県立医科大学 ）・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（☒有（病院名： 京都府立医科大学 ）・無）
- ・技術的助言の実施状況
 - 令和 2 年度特定機能病院間相互のピアレビューは、書面による実施であり、技術的助言は特になかった。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況
 - 患者支援センター内に患者相談窓口を設置し、医療安全及び医療上のインシデントに関する相談については、医療安全管理者と連携して対応している。

⑫ 職員研修の実施状況

・ 研修の実施状況

2020年5月18日、e-learning開講	インシデント報告と患者誤認
2020年5月18日、e-learning開講	エラー対策
2020年6月29日、e-learning開講	ヨード造影剤腎症（CIN）予防ガイドライン改訂第3版について
2020年9月30日、e-learning開講	医薬品の副作用報告
2020年12月28日、e-learning開講	外来での患者取り違いによる誤注射
2020年12月28日、e-learning開講	セントラルモニタ受信患者間違い
2021年1月14日、e-learning開講	MR検査を安全に運用するために

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・ 研修の実施状況

2020 年度特定機能病院管理者研修を受講
 管理者・・・第4回（2020.12.10）
 医療安全管理責任者・・・第1回（2020.11.2）
 医薬品安全管理責任者・・・第4回（2020.12.10）
 医療機器安全管理責任者・・・第5回（2020.12.16）

（注）前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・ 第三者による評価の受審状況

公益財団法人日本医療機能評価機構
 認定期間：2019年2月16日～2024年2月15日

・ 評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

病院ホームページに病院機能評価認定証取得についてのページを設け、公益財団法人日本医療機能評価機構ホームページの審査結果公開ページのリンクを貼ることで結果を公表している。なお、医療機関内における事故について指摘事項はなかった。

・ 評価を踏まえ講じた措置

医療機関内における事故について指摘事項はなかった。

（注）記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準 ・ 基準の主な内容 （滋賀医科大学医学部附属病院長選考基準より） 1. 優れた学識、豊かな人間性と高い倫理観を持つとともに、大学における教育・研究・診療活動を適切にかつ効率的に運営することができる者。※医学系教授の経験を有する者が望ましい。 2. 医療安全管理業務の経験と、患者安全を第一に考える姿勢及び指導力等を有する者。 ※医療安全管理業務の経験とは下記のいずれかの業務に従事した経験を有するものであること（厚生労働省通知） ①医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者の業務 ②医療安全管理委員会の構成員としての業務 ③医療安全管理部門における業務 ④その他上記に準じる業務 3. 附属病院または附属病院以外の病院での組織管理経験など、高度な医療を司る特定機能病院の管理運営上必要な資質・能力を有する者 ※病院長または副病院長の経験を有することが望ましい。 4. 「滋賀医科大学医学部附属病院の理念及び基本方針」及び「滋賀医科大学中期目標（附属病院に関する目標）等」に基づいた病院運営を遂行できる者。 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ ☒ 有 ・ ☐ 無 ） ・ 公表の方法 本学ホームページに掲載している。
--

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有・ ☒ 無			
・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ 有・無 ） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ 有・無 ） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ 有・無 ） ・ 公表の方法				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
				有・無
				有・無
				有・無
				有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の
設置及び運営状況

合議体の設置の有無			有・無
・合議体の主要な審議内容 (1) 病院の将来計画に関する事項 (2) 病院の運営に係る中期目標・中期計画・年度計画に関する事項 (3) 診療体制のあり方に関する事項 (4) 病院の経営方針に関する事項 (5) 病院の予算及び決算に関する事項 (6) 病院の評価結果に基づく改善等に関する事項 (7) その他病院の管理運営に関する重要事項 ・審議の概要の従業者への周知状況 学内ホームページに毎月の議事録を掲載し、メールで職員に周知している。 ・合議体に係る内部規程の公表の有無（有・無） ・公表の方法 ・外部有識者からの意見聴取の有無（有・無）			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
田中 俊宏	○	医師	病院長
野崎 和彦		医師	副病院長
村上 節		医師	副病院長
北川 裕利		医師	副病院長
今井 晋二		医師	副病院長
小寺 利美		看護師	副病院長
鎌澤 幸彦		事務	副病院長
大路 正人		医師	病院長補佐
漆谷 真		医師	病院長補佐
國友 陵一		事務	病院長補佐
中野 恭幸		医師	教授
前川 聡		医師	教授
谷 眞至		医師	教授
渡邊 嘉之		医師	教授
芦原 貴司		医師	部長
川崎 拓		医師	センター長
辻 俊一郎		医師	病棟医長連絡協議会委員長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・☒）
- ・ 公表の方法
本学ホームページに掲載している。
- ・ 規程の主な内容
 - 病院の管理及び運営に必要な人事及び予算執行権限

人事権：国立大学法人滋賀医科大学文書決裁規程

第5条 前条の規定にかかわらず、別表第2の事項欄に掲げる事項の決裁については、専決者欄に掲げる者が専決する。ただし、特別の事情がある場合は、この限りでない。

（別表第2）※該当箇所抜粋

区 分	事 項	名 義 者	専 決 者
人事課	(7) 附属病院に係る職員（教員を除く。）の任免及び給与に関するもの	学 長	病 院 長
	(8) 病院規程第10条から第12条及び第13条第8項に定める科長等の命免に関するもの	学 長	病 院 長

予算執行権限：国立大学法人滋賀医科大学予算規則

第4条 会計規程第5条第2項に定める予算単位及び予算責任者は別表1のとおりとする。

（別表1（第4条関係） 予算単位及び予算責任者）※該当箇所抜粋

区 分	予算単位	予算責任者
医学部附属病院	国立大学法人滋賀医科大学学則第10条に定める附属病院	病院長

○その他

医療安全等の確保のための診療等停止権限

：滋賀医科大学医学部附属病院における医療安全等の確保に関する内規

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
- 病院に病院長を補佐し、職務を分担するため、次に掲げる副病院長を置く。
 - (1) 副病院長（医療安全等担当）
病院における安全管理及び感染対策等の危機管理に関する職務を担当し、病院の円滑な運営を図る。
 - (2) 副病院長（企画・評価担当）
病院における企画及び評価に関する職務を担当し、病院の円滑な運営を図る。
 - (3) 副病院長（労務・診療担当）
病院における労務及び診療に関する職務を担当し、病院の円滑な運営を図る。
 - (4) 副病院長（教育・業務担当）
病院における教育及び業務に関する職務を担当し、病院の円滑な運営を図る。
 - (5) 副病院長（看護担当）
病院における看護に関する職務を担当し、病院の円滑な運営を図る。
 - (6) 副病院長（事務統括・働き方改革担当）
病院における事務統括及び働き方改革に関する職務を担当し、病院の円滑な運営を図る。
- 病院長は、特定の業務について処理させるため、次に掲げる病院長補佐を指名することができる。
 - (1) 病院長補佐（臨床研究開発担当）
臨床研究の支援に関する職務を担当する。
 - (2) 病院長補佐（広報・地域連携担当）
病院の広報及び地域医療機関との連携に関する職務を担当する。
 - (3) 病院長補佐（経営・機能強化担当）

病院の経営及び病院の機能強化に関する職務を担当する。

○事務部長は、病院長を補佐し、病院における経営、医療サービス、施設管理、臨床研究その他病院の管理運営に関する事務を掌理する。

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

○令和3年2月16日 医師の働き方改革緊急セミナー（WEB）

※本セミナーへの出席を令和2年度病院長塾への出席と見なす。

＜参加者＞

- ・ 副病院長（経営担当） 國友 陵一
- ・ 副病院長（労務・診療担当） 北川 裕利

規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況					☒ ・無	
・ 監査委員会の開催状況：年 2 回 ・ 活動の主な内容： (1) 医療に係る安全管理についての業務方法書及び規則等の整備状況に関すること。 (2) 関係法令，業務方法書，規則等に基づく業務の実施状況に関すること。 (3) 医療安全管理責任者，医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の行うべき業務の状況に関すること。 (4) 医療安全管理部の体制及び業務の状況に関すること。 (5) 医療安全管理委員会の業務の状況に関すること。 (6) その他本院における医療安全管理体制に関すること。 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（ ☒・無 ） ・ 委員名簿の公表の有無（ ☒・無 ） ・ 委員の選定理由の公表の有無（ ☒・無 ） ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（ ☒・無 ） ・ 公表の方法：病院ホームページに掲載している。						
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）						
氏名	所属	委員長 （○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況	
松村 由美	京都大学	○	医療に係る安全管理に関する業務に従事している	有・ ☒ 無	1	
佐和 貞治	京都府立医科大学		医療に係る安全管理に関する業務に従事している	有・ ☒ 無	1	
平野 哲郎	立命館大学		法律学に関する専門知識に基づき教育・研究業務に従事している	有・ ☒ 無	1	
西川 甫	滋賀県スポーツ協会		医療を受ける者の立場から意見を述べる	有・ ☒ 無	2	
遠山 育夫	滋賀医科大学		大学の理事（研究・企画・国際担当）の立場で意見を述べる	☒ ・無	3	
松浦 博	滋賀医科大学		大学の理事（教育・学生支援・コンプライアンス担当）の立場で意見を述べる	☒ ・無	3	

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1. に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・ 体制の整備状況及び活動内容

管理者の業務が法令に適合することを確認し、病院の健全な運営に資するために、専門部署として学長の下に「監査室」を設置しており、病院の運営状況を公正かつ客観的に調査及び検証するなど、内部監査を企画立案し実施している。

・ 専門部署の設置の有無（ ☒ ・ 無 ）

・ 内部規程の整備の有無（ ☒ ・ 無 ）

・ 内部規程の公表の有無（ ☒ ・ 無 ）

・ 公表の方法
大学ホームページに掲載している。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 法人に重要事項を議決する機関として、学長及び理事をもって組織される役員会を設置しており、病院規程に定める組織（診療科、中央診療部等）の設置、廃止等ならびに重要な人事（部局長等の選考、看護部長の選考）については、当該会議体の議決事項として定めている。 また、管理者から毎月開催している病院管理運営会議の審議内容を報告させ、病院の管理運営状況を監督している。 ・ 会議体の実施状況（ 年24回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ ☒有・無 ）（ 年24回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ ☒有・無 ） ・ 公表の方法 大学ホームページに役員会規程を掲載している。			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

（注） 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合
等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 通報件数（年〇件） ・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 周知の方法 全学メールにて周知

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	☒ 有・無
・ 情報発信の方法、内容等の概要 附属病院ホームページにて、Q I（クオリティ・インディケーター）や本院の特色ある医療等を公開している。	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	☒ 有・無
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 緩和ケア…腫瘍内科、小児科、精神科、循環器内科、消化器内科、消化器外科、呼吸器外科、女性診療科、泌尿器科、麻酔科、放射線科、歯科口腔外科 感染対策…呼吸器内科、呼吸器外科、小児科、歯科口腔外科、消化器外科、血液内科、救急・集中治療部 栄養サポート…消化器内科、乳腺・小児・一般外科、消化器外科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、歯科口腔外科	